

横浜市外転出者  
意識調査結果

平成 30 年 3 月  
横浜市政策局



# 目次

I. 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査方法.....	1
(1) 調査の対象.....	1
(2) 調査の方法.....	1
(3) 調査項目.....	1
(4) 実施期間.....	1
3 回収状況.....	1
4 集計結果について.....	2
II. 調査結果.....	3
1 属性.....	3
(1) 性別.....	3
(2) 転出した時の年齢.....	4
(3) 横浜市で住んでいた地域.....	5
(4) 転出先の地域.....	6
(5) 横浜市に住んでいた期間.....	8
(6) 世帯構成.....	9
(7) 住居形態.....	11
2 市外転出事由.....	15
(1) 転出した一番大きなきっかけ.....	15
(2) 転出した一番大きなきっかけがなければ横浜市に住み続けていたか.....	24
3 転出先を選んだ理由.....	25
(1) 横浜市より転出先を選んだ理由（複数回答）.....	25
(2) 横浜市より転出先を選んだ一番大きな理由.....	29
4 横浜市への再転入意向.....	41
(1) 横浜市への再転入意向.....	41
5 自由記述.....	42
III. 参考資料 調査票	



# I. 調査の概要

## 1 調査の目的

将来予測される人口減少や東京一極集中の加速などの状況を踏まえ、横浜市外に転出した市民の転出事由や意識を把握し、今後の市政運営や政策立案の基礎資料として活用するため実施した。

## 2 調査方法

### (1) 調査の対象

住民記録システムから無作為に抽出した、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの間に横浜市内から東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）へ転出した20歳以上44歳以下の男女5,000人

### (2) 調査の方法

郵送による調査票送付・回収（郵送で調査票を送り、返信用封筒で返送回収）

### (3) 調査項目

- 1) 属性
- 2) 市外転出事由
- 3) 転出先を選んだ理由
- 4) 横浜市への再転入意向
- 5) 自由記述

### (4) 実施期間

平成29年10月4日から平成29年10月23日まで

## 3 回収状況

発 送 数	不 達 等	
	不 達 等	有 効 発 送 数
5,000	149	4,851

回 収 数	無 効 票		回 収 率
	無 効 票	有 効 回 収 数	
1,529	6	1,523	30.5%

※回収期限は平成29年11月2日到着まで。期限外回収分は集計に含まず。

※回収率 = 有効回収数 / 発送数

#### 4 集計結果について

- ◆調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。
- ◆複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- ◆図表中の「n」とは、その設問への回答者数を表す。
- ◆選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いている。
- ◆属性別のグラフにおいては、比率が1%以下の項目について数字の記載を省略している。
- ◆クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。よって「総数」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。
- ◆クロス集計において、母数が小さい場合、誤差が大きくなるため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ◆東京都と神奈川県地域は以下のとおり細区分している。

地域名	市区町村名
東京都区部	23 特別区
東京都区部以外	23 特別区を除く都内の市町村、市区町村不明を含む
神奈川県川崎市	川崎市（川崎区、幸区、中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区）
神奈川県相模原市	相模原市（緑区、中央区、南区）
神奈川県県央地区	厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛甲郡（愛川町、清川村）
神奈川県湘南地区	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、高座郡（寒川町）、中郡（大磯町、二宮町）
神奈川県横須賀三浦地区	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、三浦郡（葉山町）
神奈川県内その他	小田原市、南足柄市、足柄上郡（中井町、大井町、松田町、山北町、開成町）、足柄下郡（箱根町、真鶴町、湯河原町）、市区町村不明を含む

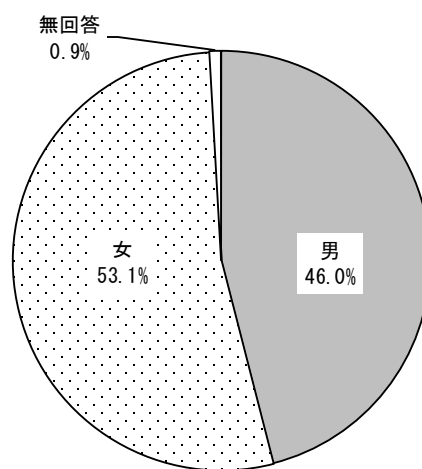
## II. 調査結果

### 1 属性

#### (1) 性別

F 1 あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

性別は、「男」が46.0%、「女」が53.1%となっている。



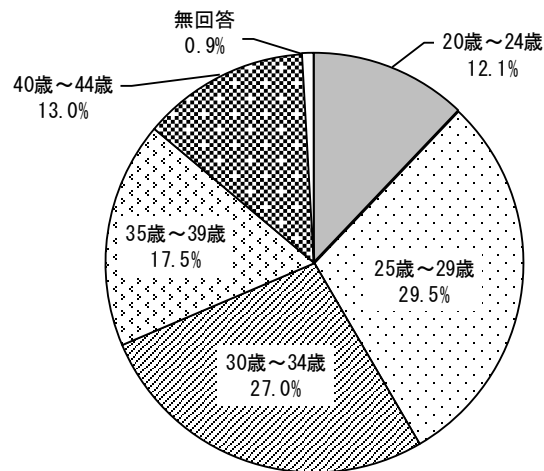
(n = 1,523)

## (2) 転出した時の年齢

F 2 あなたが横浜市から転出した時の年齢をお答えください。(○は1つだけ)

転出した時の年齢は、「25歳～29歳」が29.5%と最も高く、次いで「30歳～34歳」が27.0%、「35歳～39歳」が17.5%となっている。

「25歳～29歳」と「30歳～34歳」を合わせると56.5%と半数以上となっている。



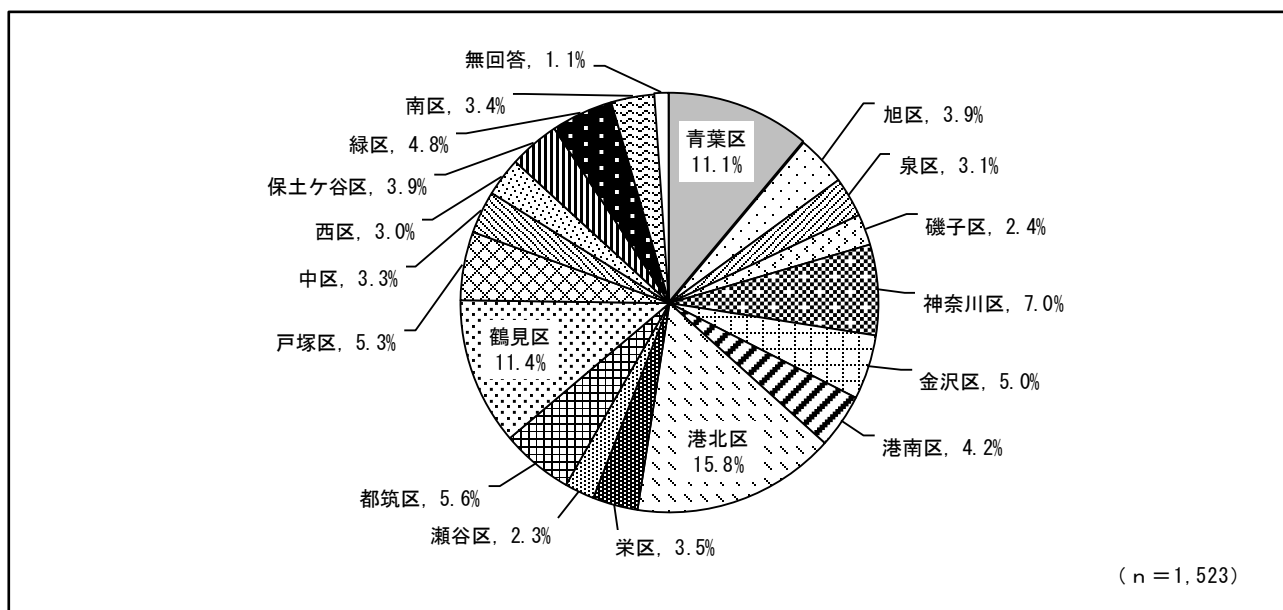
(n = 1,523)



### (3) 横浜市で住んでいた地域

F3 あなたが横浜市でお住まいだった地域はどちらですか。(〇は1つだけ)

横浜市で住んでいた地域は、「港北区」が15.8%と最も高く、次いで「鶴見区」が11.4%、「青葉区」が11.1%となっている。



#### <平成29年 人口に対する回答者の比率>

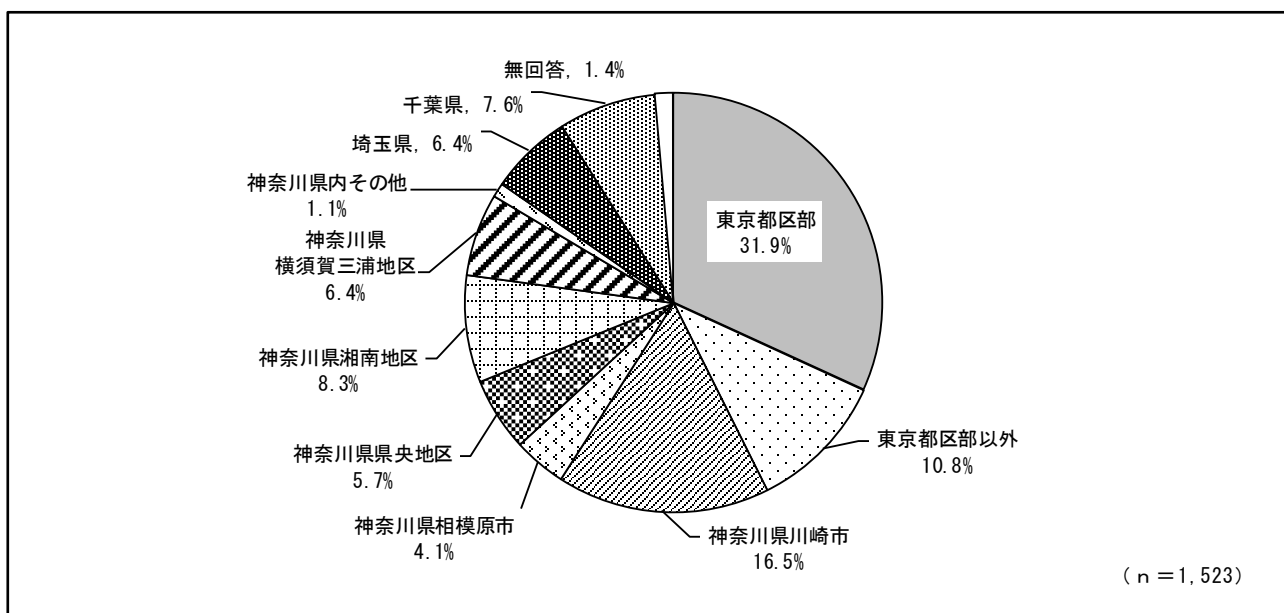
人口は「横浜市統計ポータルサイト「人口動態と年齢別人口」」より平成29年1月1日現在の全人口を引用している。比率 = (回答者数) / (人口) × 100

区名	人口	回答者数	比率
<b>横浜市</b>	<b>3,731,096</b>	<b>1,523</b>	<b>0.04</b>
青葉区	310,499	169	0.05
旭区	246,517	60	0.02
泉区	153,690	47	0.03
磯子区	166,420	36	0.02
神奈川区	240,224	106	0.04
金沢区	200,850	76	0.04
港南区	214,519	64	0.03
港北区	346,922	240	0.07
栄区	121,362	54	0.04
瀬谷区	124,197	35	0.03
都筑区	212,170	86	0.04
鶴見区	287,451	173	0.06
戸塚区	275,996	80	0.03
中区	149,095	50	0.03
西区	98,646	46	0.05
保土ヶ谷区	206,621	59	0.03
緑区	181,165	73	0.04
南区	194,752	52	0.03

#### (4) 転出先の地域

F 4 あなたが転出した先の住所を記入してください。

転出先の地域は、「東京都区部」が 31.9%で最も高く、次いで「神奈川県川崎市」が 16.5%、「東京都区部以外」が 10.8%となっている。



#### <転出した先の市区町村>

回答者が 15 人以上の市区町村は以下のとおりである。「神奈川県川崎市」が 16.5%で最も高く、次いで「東京都大田区」が 4.7%、「神奈川県相模原市」が 4.1%となっている。

東京都区部では、「東京都大田区」が最も高く、次いで「東京都世田谷区」が 3.9%と神奈川県に隣接した区が高くなっている。

No	市区町村名	件数	(%)
1	神奈川県川崎市	251	16.5
2	東京都大田区	71	4.7
3	神奈川県相模原市	63	4.1
4	神奈川県藤沢市	61	4.0
5	東京都世田谷区	59	3.9
6	東京都品川区	57	3.7
7	神奈川県横須賀市	50	3.3
8	東京都町田市	46	3.0
9	神奈川県大和市	38	2.5
10	神奈川県鎌倉市	33	2.2
11	東京都江戸川区	31	2.0

No	市区町村名	件数	(%)
12	東京都目黒区	30	2.0
	神奈川県茅ヶ崎市	30	2.0
14	東京都練馬区	25	1.6
15	東京都杉並区	23	1.5
16	東京都港区	21	1.4
17	千葉県千葉市	20	1.3
18	埼玉県さいたま市	18	1.2
	千葉県市川市	18	1.2
20	東京都足立区	17	1.1
	神奈川県平塚市	17	1.1
22	東京都八王子市	15	1.0

<横浜市で住んでいた地域（F3）別>

【横浜市で住んでいた地域（F3）】別では、『瀬谷区』を除いたすべての地域で「東京都区部」が最も高くなっている。『都筑区』、『鶴見区』及び『青葉区』で、「神奈川県川崎市」への転出がそれぞれ 25.6%、24.9%、21.9%と他の地域に比べて高くなっている。また、『金沢区』で「神奈川県横須賀三浦地区」への転出が 22.4%、『戸塚区』で「神奈川県湘南地区」への転出が 21.3%、『緑区』で「神奈川県相模原市」への転出が 16.4%と他の地域に比べて高くなっている。『瀬谷区』及び『旭区』で、「神奈川県県央地区」への転出がそれぞれ 25.7%、18.3%と他の地域に比べて高くなっている。

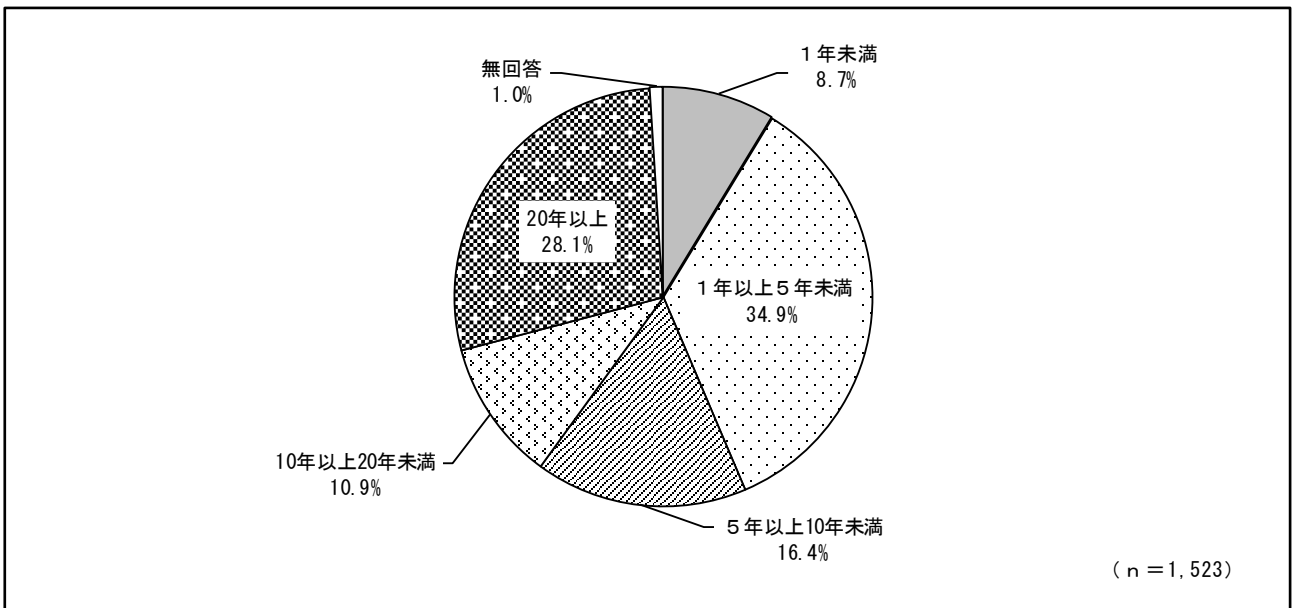
		(%)										
		回答者数	転出先の地域（F4）									
			東京都区部	東京都区部以外	神奈川県川崎市	神奈川県相模原市	神奈川県県央地区	神奈川県湘南地区	横須賀三浦地区	神奈川県内その他	埼玉県	千葉県
横浜市で住んでいた地域（F3）	総数	1,523	31.9	10.8	16.5	4.1	5.7	8.3	6.4	1.1	6.4	7.6
	青葉区	169	36.1	12.4	21.9	5.3	4.1	3.6	1.8	0.6	5.3	7.7
	旭区	60	33.3	5.0	8.3	3.3	18.3	13.3	0.0	1.7	10.0	6.7
	泉区	47	23.4	8.5	4.3	4.3	12.8	14.9	10.6	2.1	10.6	8.5
	磯子区	36	30.6	5.6	11.1	5.6	2.8	13.9	8.3	0.0	11.1	8.3
	神奈川区	106	39.6	10.4	14.2	3.8	1.9	10.4	2.8	1.9	8.5	6.6
	金沢区	76	30.3	13.2	5.3	0.0	1.3	10.5	22.4	2.6	10.5	3.9
	港南区	64	26.6	20.3	17.2	1.6	1.6	6.3	10.9	0.0	4.7	10.9
	港北区	240	37.1	11.3	18.3	3.3	4.2	7.5	4.6	0.8	5.4	6.7
	栄区	54	22.2	1.9	7.4	9.3	5.6	20.4	20.4	0.0	5.6	7.4
	瀬谷区	35	20.0	5.7	5.7	11.4	25.7	17.1	0.0	5.7	2.9	5.7
	都筑区	86	30.2	11.6	25.6	3.5	7.0	9.3	2.3	0.0	3.5	7.0
	鶴見区	173	34.1	11.0	24.9	1.7	4.6	4.0	3.5	0.0	5.2	9.8
	戸塚区	80	22.5	7.5	17.5	6.3	3.8	21.3	6.3	1.3	2.5	11.3
	中区	50	30.0	14.0	16.0	0.0	2.0	4.0	16.0	0.0	8.0	8.0
	西区	46	34.8	6.5	10.9	6.5	2.2	2.2	17.4	2.2	6.5	10.9
	保土ヶ谷区	59	40.7	6.8	20.3	0.0	6.8	0.0	5.1	3.4	8.5	8.5
	緑区	73	23.3	19.2	13.7	16.4	8.2	4.1	2.7	1.4	9.6	1.4
南区	52	32.7	13.5	17.3	0.0	13.5	5.8	3.8	0.0	3.8	9.6	

最も割合が高い選択肢

### (5) 横浜市に住んでいた期間

F 5 あなたが今回転出するまでに、横浜市に住んでいた期間をお答えください。  
(○は1つだけ)

横浜市に住んでいた期間は、「1年以上5年未満」が34.9%で最も高く、次いで「20年以上」が28.1%、「5年以上10年未満」が16.4%となっている。

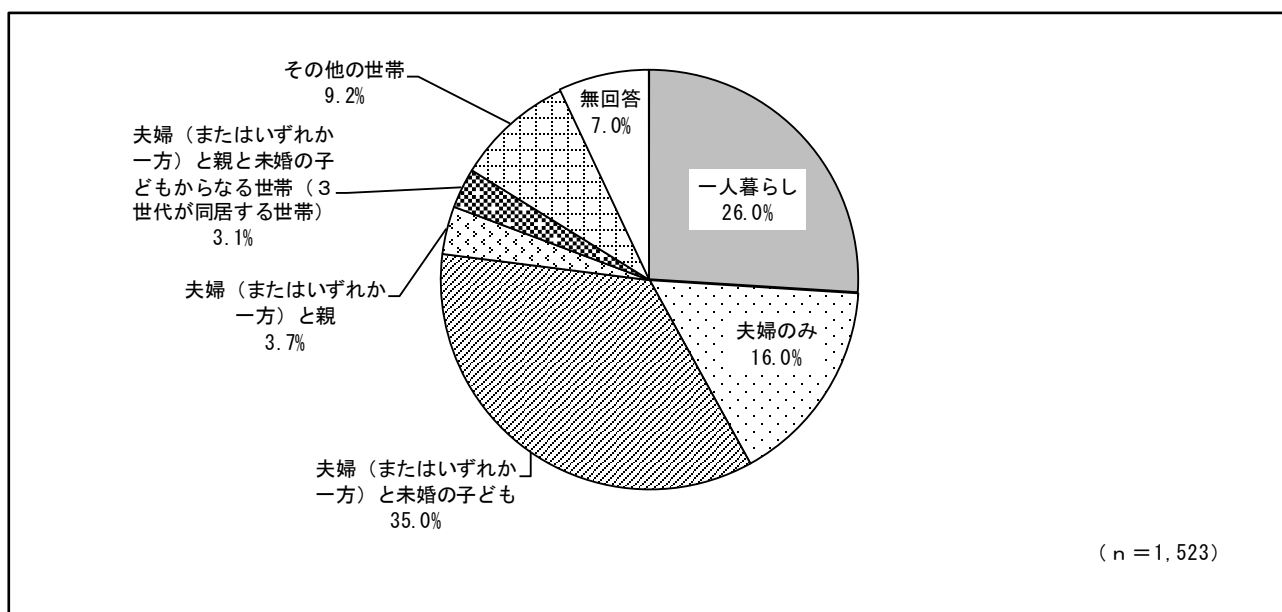


## (6) 世帯構成

F 6 あなたの転出前の世帯構成と、横浜市から転出した先での世帯構成について、あてはまるものの番号をそれぞれ1つ選び記入してください。

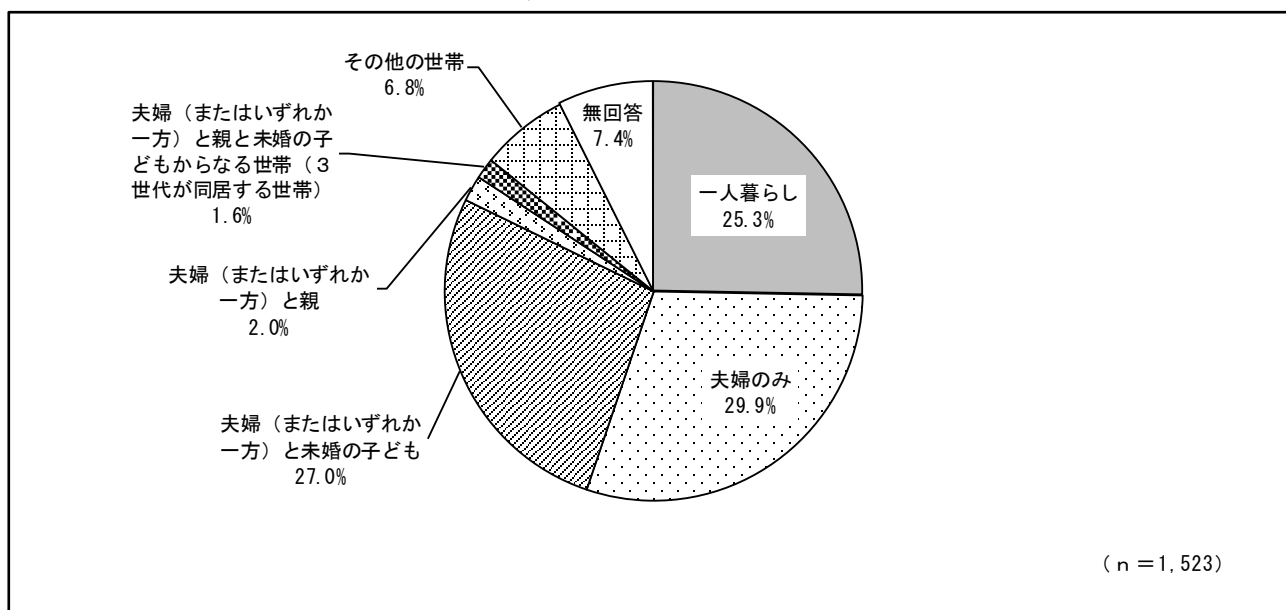
### 1) 転出前

転出前の世帯構成は「夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども」が35.0%で最も高く、次いで「一人暮らし」が26.0%、「夫婦のみ」が16.0%となっている。



### 2) 転出後

転出後の世帯構成は「夫婦のみ」が29.9%で最も高く、次いで「夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども」が27.0%、「一人暮らし」が25.3%となっている。



<世帯構成の変化>


回答者 (n=1, 523) のうち、転出前後の世帯構成の組み合わせがそれぞれ占める割合を出した。

転出前後で世帯構成の変化がある回答者は 49.9%、ない回答者が 42.7%となっている。

転出前後ともに「夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども」が 18.7%で最も高く、次いで転出前後ともに「一人暮らし」が 12.1%、転出前「一人暮らし」・転出後「夫婦のみ」が 8.8%となっている。

(%)

		転出前						
		合計	一人暮らし	夫婦のみ	一夫婦（または未婚の子ども）	一夫婦（または親）	子どもからなる世帯（3世帯が同居する世帯）	一夫婦（または未婚の子ども）
転出後	合計	100.0	26.0	16.0	35.0	3.7	3.1	9.2
	一人暮らし	25.3	12.1	1.0	6.8	1.1	1.3	3.0
	夫婦のみ	29.9	8.8	8.5	7.0	1.8	0.9	2.8
	夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども	27.0	1.9	5.1	18.7	0.3	0.4	0.5
	夫婦（またはいずれか一方）と親	2.0	0.5	0.8	0.2	0.5	-	0.1
	夫婦（またはいずれか一方）と親と未婚の子どもからなる世帯（3世帯が同居する世帯）	1.6	0.3	0.2	0.7	-	0.4	0.1
	その他の世帯	6.8	2.4	0.3	1.4	0.1	0.1	2.5

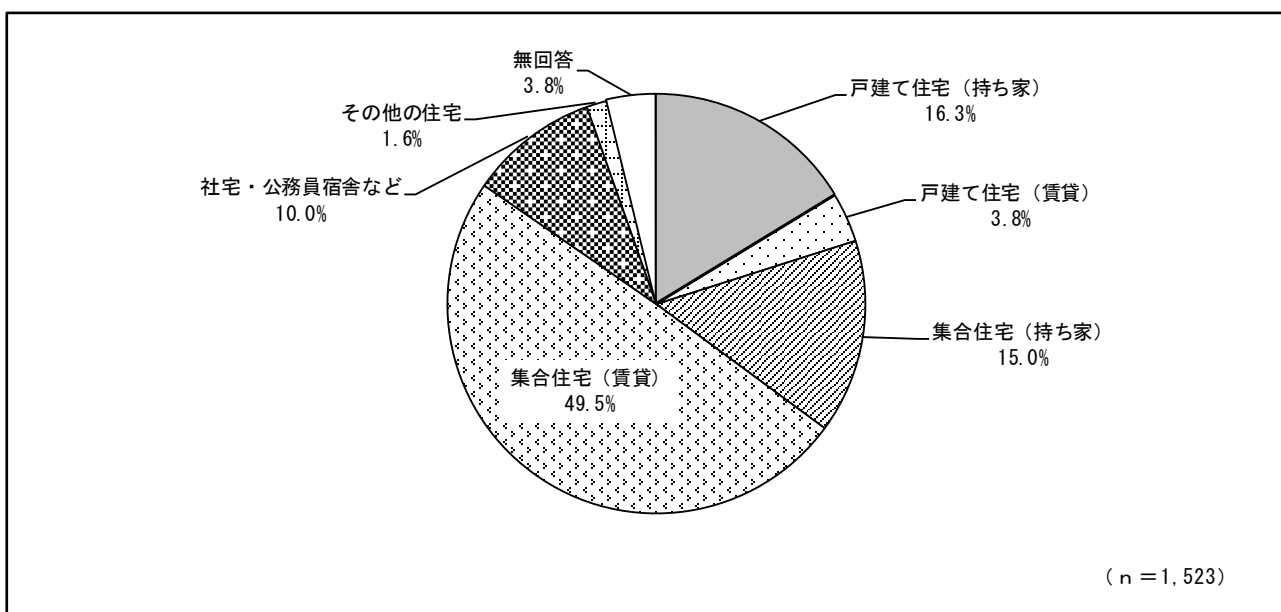
 転出前後で世帯構成に変化がない

## (7) 住居形態

F 7 あなたの転出前の住居形態と、横浜市から転出した先での住居形態について、あてはまるものの番号をそれぞれ1つ選び記入してください。

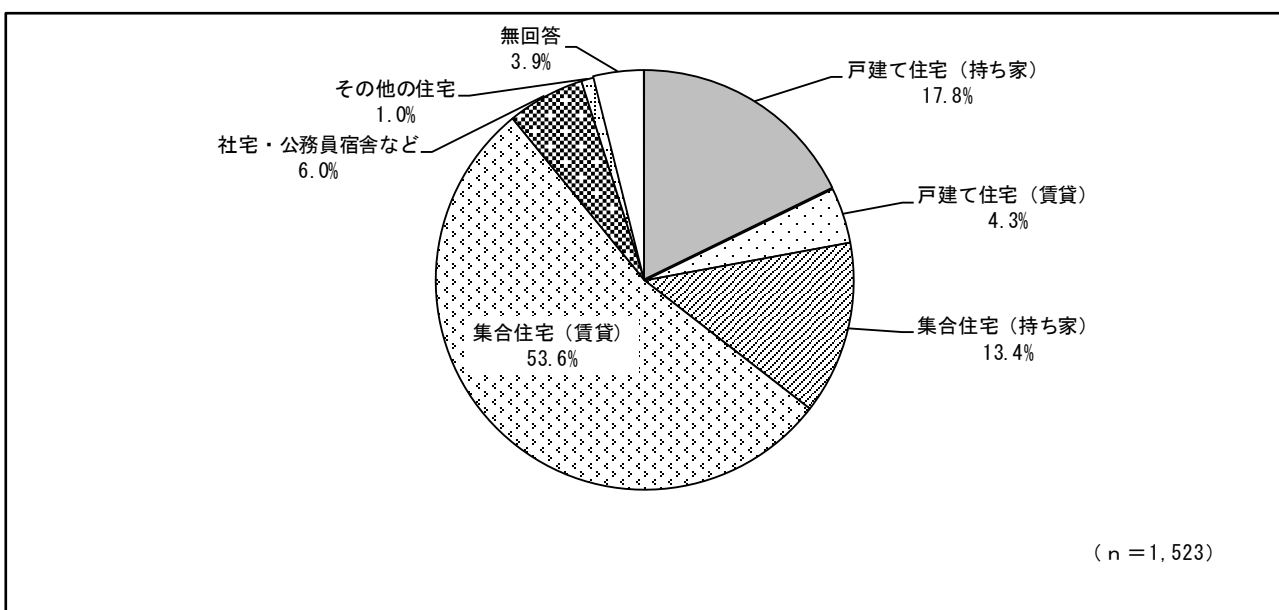
### 1) 転出前

転出前の住居形態は、「集合住宅（賃貸）」が49.5%と最も高く、次いで「戸建て住宅（持ち家）」が16.3%、「集合住宅（持ち家）」が15.0%となっている。



### 2) 転出後

転出後の住居形態は、「集合住宅（賃貸）」が53.6%と最も高く、次いで「戸建て住宅（持ち家）」が17.8%、「集合住宅（持ち家）」が13.4%となっている。



## <住居形態の変化>

回答者 (n=1, 523) のうち、転出前後の住居形態の組み合わせがそれぞれ占める割合を出した。

転出前後で住居形態の変化がある回答者は 61.0%、ない回答者が 35.2%となっている。


転出前後ともに「集合住宅（賃貸）」が 27.0%で最も高く、次いで転出前「戸建て住宅（持ち家）」・転出後「集合住宅（賃貸）」が 11.9%、転出前「集合住宅（賃貸）」・転出後「戸建て住宅（持ち家）」が 11.2%となっている。

「戸建て住宅（持ち家）」及び「集合住宅（持ち家）」を合わせた《持ち家》は転出前 31.3%・転出後 31.2%となっている。「戸建て住宅（賃貸）」、「集合住宅（賃貸）」及び「社宅・公務員宿舍など」を合わせた《賃貸》は転出前 63.3%・転出後 63.9%となっている。《持ち家》、《賃貸》ともに、転出前後で比率がほぼ同じとなっている。

また、転出前《持ち家》・転出後《賃貸》が 24.0%、転出前《賃貸》・転出後《持ち家》が 23.7%となっており、《持ち家》から《賃貸》に移った人と、《賃貸》から《持ち家》に移った人（家を購入した人）の比率がほぼ同じとなっている。

(%)

		転出前						
		合計	戸建て住宅 (持ち家)	戸建て住宅 (賃貸)	集合住宅 (持ち家)	集合住宅 (賃貸)	社宅・公務員 宿舍など	その他の住宅
転出後	合計	100.0	16.3	3.8	15.0	49.5	10.0	1.6
	戸建て住宅（持ち家）	17.8	1.6	0.8	1.9	11.2	2.0	0.3
	戸建て住宅（賃貸）	4.3	0.7	1.4	0.5	1.4	0.2	0.1
	集合住宅（持ち家）	13.4	1.0	0.8	2.5	7.6	1.3	0.1
	集合住宅（賃貸）	53.6	11.9	0.6	9.5	27.0	3.9	0.7
	社宅・公務員宿舍など	6.0	0.9	0.3	0.5	1.8	2.5	0.1
	その他の住宅	1.0	0.2	-	0.1	0.5	0.1	0.2

 転出前後で住居形態に変化がない

※以下、《持ち家》は「戸建て住宅（持ち家）」及び「集合住宅（持ち家）」の合計、《賃貸》は「戸建て住宅（賃貸）」、「集合住宅（賃貸）」及び「社宅・公務員宿舍など」の合計とする。



<転出前後の世帯構成・住居形態>

回答者（n=1,523）のうち、転出前後の住居形態が《持ち家》及び《賃貸》における世帯構成の組み合わせがそれぞれ占める割合を出した。

転出前後ともに《賃貸》の「一人暮らし」が10.5%と最も高く、次いで、転出前《賃貸》・転出後《持ち家》の転出前後ともに「夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども」が9.4%、転出前後ともに《賃貸》の転出前「一人暮らし」・転出後「夫婦のみ」が6.8%となっている。

(%)

	合計	転出前													
		《持ち家》						《賃貸》							
		一人暮らし	夫婦のみ	夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども	親夫婦（またはいずれか一方）と	夫婦（またはいずれか一方）と親と未婚の子どもからなる世帯（3世帯が同居する世帯）	その他の世帯	一人暮らし	夫婦のみ	夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども	親夫婦（またはいずれか一方）と	親と未婚の子どもからなる世帯（3世帯が同居する世帯）	その他の世帯		
合計	100.0	1.4	1.7	17.1	2.8	2.6	4.6	24.0	14.2	17.1	0.9	0.4	4.1		
転出後	《持ち家》	一人暮らし	1.4	0.1	-	0.3	-	0.3	-	0.6	0.1	-	-	-	
		夫婦のみ	7.8	0.1	0.7	0.9	-	0.1	0.3	1.3	4.2	-	0.1	-	0.2
		夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども	15.1	0.1	0.2	2.0	0.2	0.2	0.1	0.6	2.0	9.4	0.1	-	-
		夫婦（またはいずれか一方）と親	1.4	-	0.1	-	0.1	-	-	0.3	0.5	0.2	0.1	-	0.1
		夫婦（またはいずれか一方）と親と未婚の子どもからなる世帯（3世帯が同居する世帯）	1.5	-	-	0.2	-	0.1	-	0.3	0.2	0.4	-	0.2	0.1
		その他の世帯	2.4	0.1	-	0.3	-	-	0.2	1.0	0.2	0.1	-	-	0.5
	《賃貸》	一人暮らし	23.4	0.7	0.3	5.6	0.9	0.9	1.7	10.5	0.5	0.7	0.2	0.1	1.1
		夫婦のみ	21.8	0.3	0.2	5.5	1.5	0.8	1.6	6.8	3.4	0.6	0.2	-	0.6
		夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども	11.8	0.1	0.3	1.5	-	0.1	0.3	1.1	2.6	5.4	-	-	0.1
		夫婦（またはいずれか一方）と親	0.5	-	-	-	-	-	-	0.1	0.2	-	0.3	-	-
		夫婦（またはいずれか一方）と親と未婚の子どもからなる世帯（3世帯が同居する世帯）	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.1	-
		その他の世帯	4.1	-	-	0.7	0.1	0.1	0.3	1.3	0.1	0.3	-	0.1	1.3

住居形態が転出前後ともに《持ち家》または《賃貸》

<『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』の住居形態の変化>

【世帯構成（F6）】が転出前後ともに『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』（n=284）のうち、転出前後の住居形態の組み合わせがそれぞれ占める割合を出した。

転出前後で住居形態の変化がある回答者は69.8%、ない回答者が30.4%となっている。

転出前「集合住宅（賃貸）」・転出後「戸建て住宅（持ち家）」が22.2%、転出前「集合住宅（賃貸）」・転出後「集合住宅（持ち家）」が14.4%と高くなっている。


《持ち家》は転出前18.6%・転出後61.9%、《賃貸》は転出前79.6%・転出後37.3%となっており、転出後の《持ち家》の比率が高くなっている。

転出前《持ち家》・転出後《賃貸》が8.2%、転出前《賃貸》・転出後《持ち家》が50.4%で、《持ち家》から《賃貸》に移った人より、《賃貸》から《持ち家》に移った人（家を購入した人）が多いことが要因となっている。

転出前が《賃貸》の回答者のうち、転出後《持ち家》に変わった回答者は6割以上おり、一方、転出前が《持ち家》の回答者のうち、転出後《賃貸》に変わった回答者が4割以上いる。

(%)

		転出前						
		合計	戸建て住宅（持ち家）	戸建て住宅（賃貸）	集合住宅（持ち家）	集合住宅（賃貸）	社宅・公務員宿舎など	その他の住宅
転出後	合計	100.0	4.9	4.9	13.7	60.6	14.1	1.4
	戸建て住宅（持ち家）	38.7	1.8	2.1	3.9	22.2	7.8	1.1
	戸建て住宅（賃貸）	4.9	1.1	1.8	0.7	1.4	-	-
	集合住宅（持ち家）	23.2	0.4	0.7	4.6	14.4	3.2	-
	集合住宅（賃貸）	27.8	1.4	0.4	4.6	20.1	1.1	0.4
	社宅・公務員宿舎など	4.6	0.4	-	-	2.1	2.1	-
	その他の住宅	0.4	-	-	-	0.4	-	-

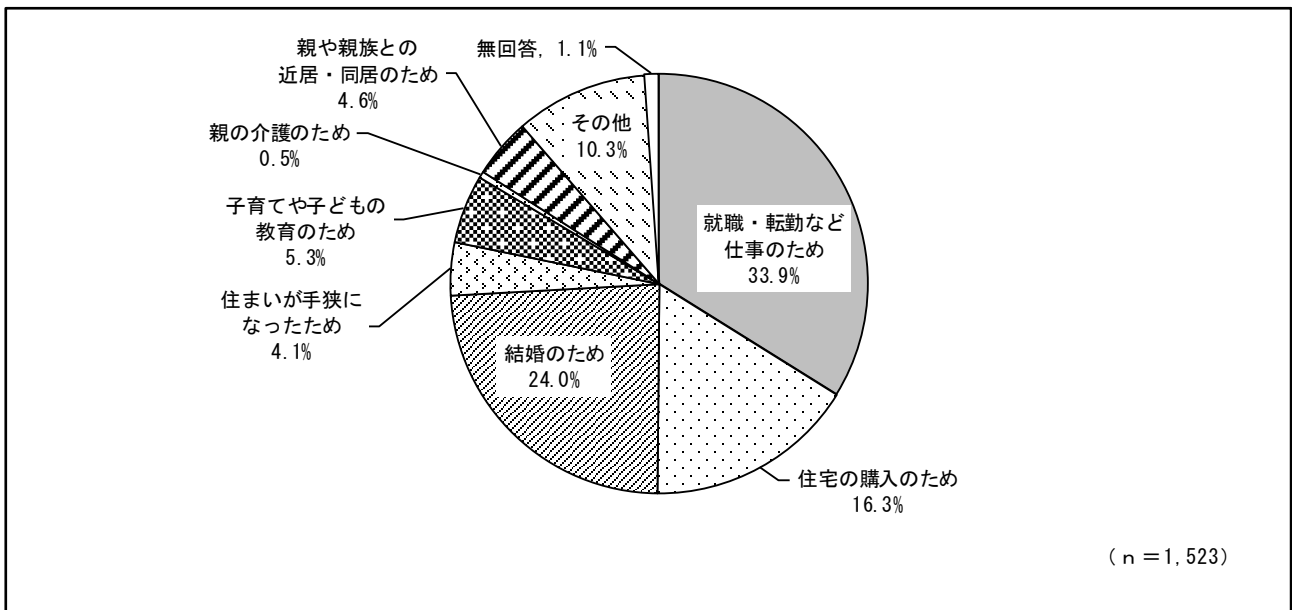
 転出前後で住居形態に変化がない

## 2 市外転出事由

### (1) 転出した一番大きなきっかけ

Q1 あなたが転出するきっかけとなった一番大きな理由を、次の中から選んでください。  
(○は1つだけ)

横浜市から転出した一番大きなきっかけは、「就職・転勤など仕事のため」が33.9%と最も高く、次いで「結婚のため」が24.0%、「住宅の購入のため」が16.3%となっている。



### <その他の主な理由>

No	その他	件数
1	離婚のため	17
2	自立するため	15
3	建物の老朽化・耐震問題による退去のため	13
4	環境が悪かったため	8
	契約期限がきたため	8
6	家賃が高かったため	7
	自身や家族の病気のため	7
8	学業のため	5
9	社宅・宿舎に入れたため	4
	不便だったため	4

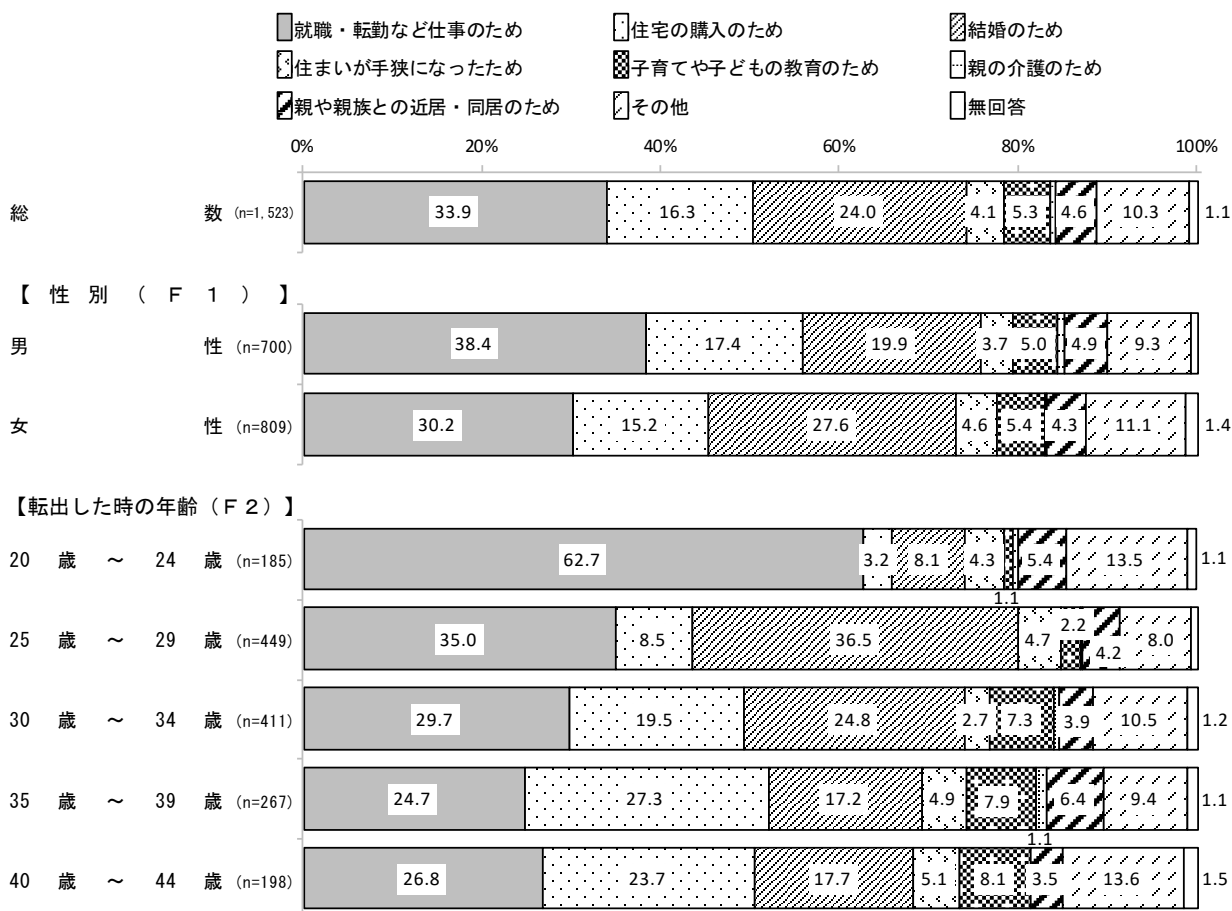
No	その他	件数
11	勤務先の住宅手当制度のため	3
	親の転居のため	3
	同棲のため	3
14	よい物件があったため	2
	同居の解消のため	2
	一人暮らしのため	2
	相続のため	2
	自然の中に住みたかったため	2
	夫の仕事のため	2
	ペットを飼うため	2
	世帯構成が変わったため	2
-	その他	16

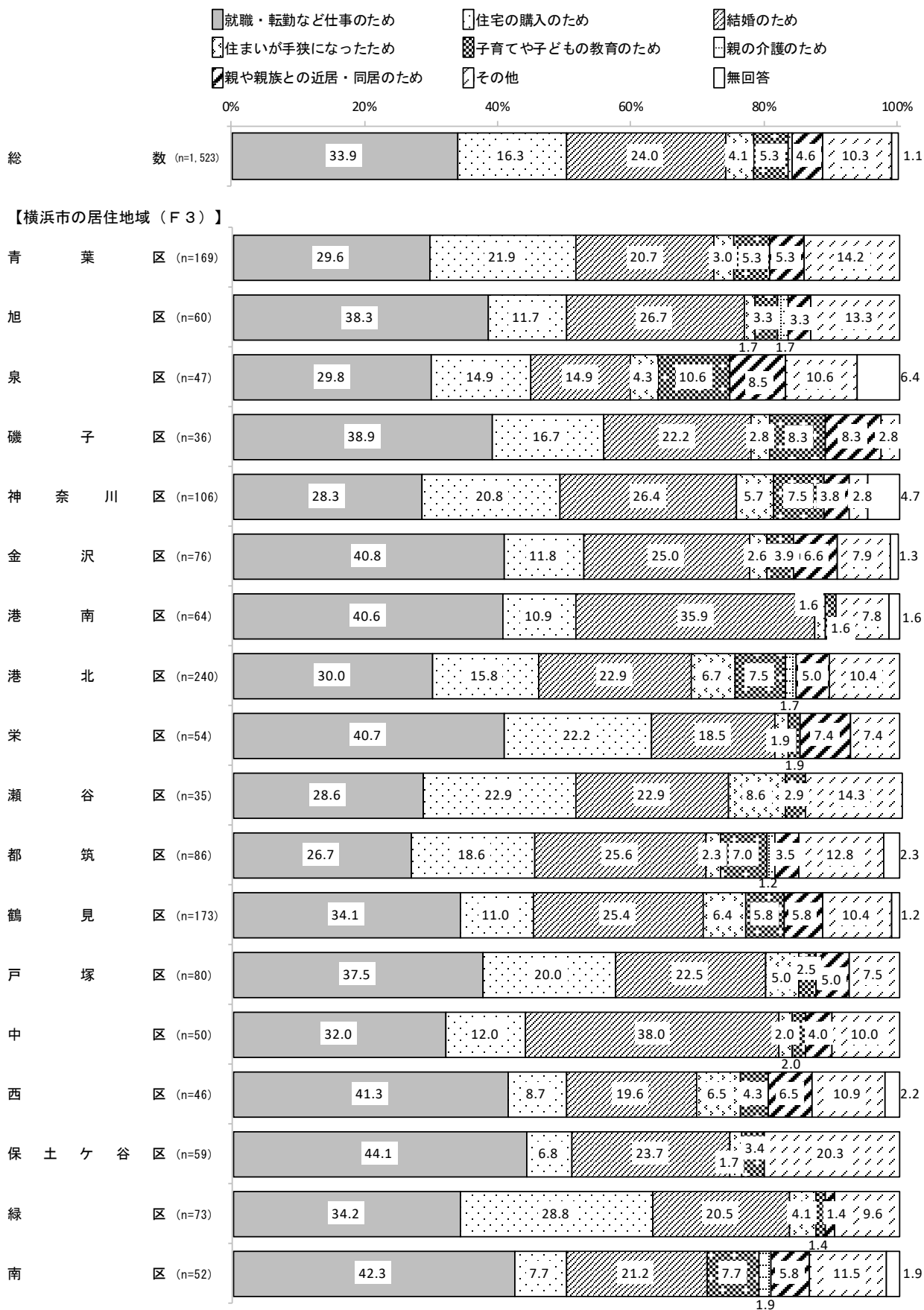
<属性別>

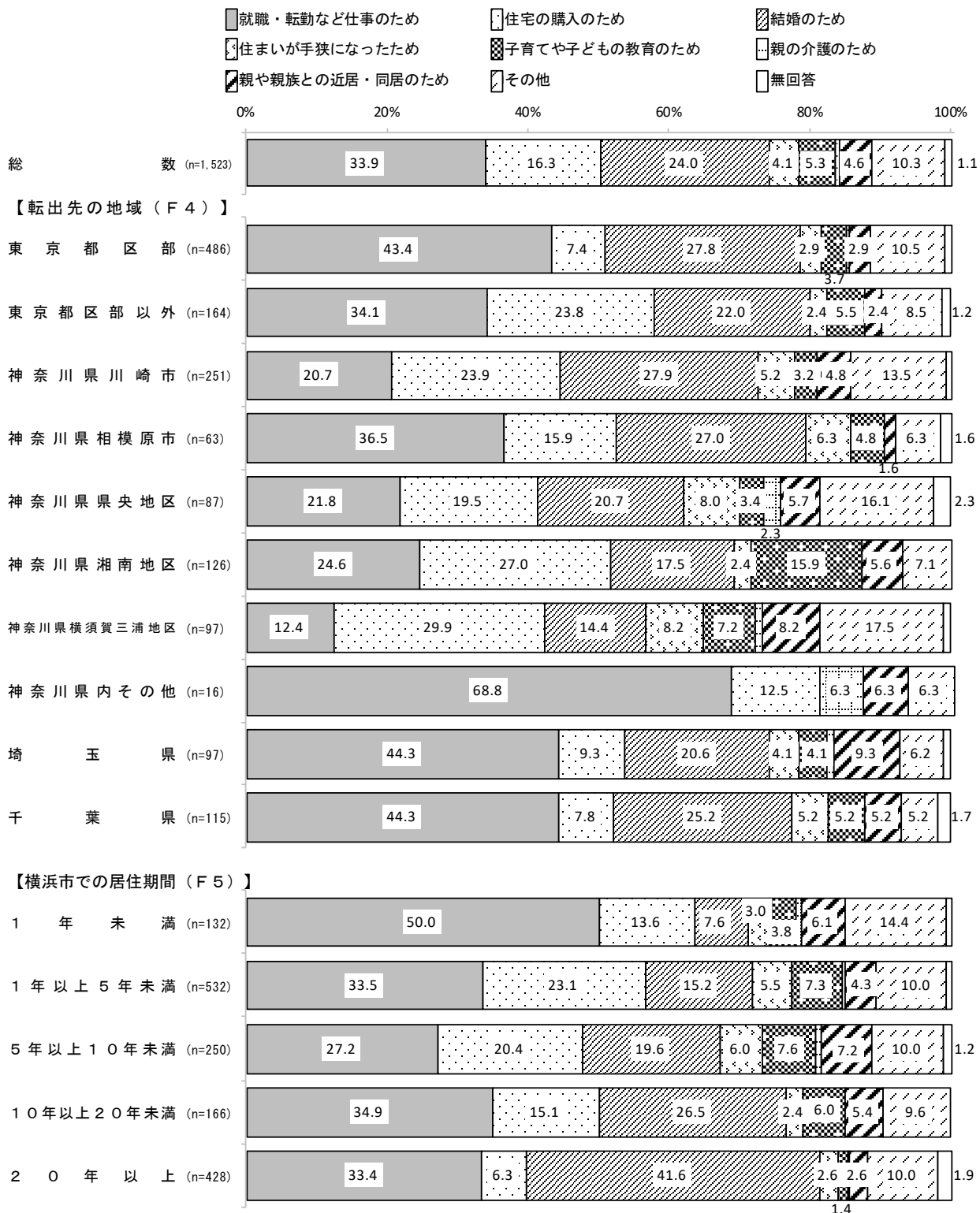
【性別（F1）】では、「就職・転勤など仕事のため」が『男性』で38.4%、『女性』で30.2%と最も高くなっている。一方、「結婚のため」は『女性』（27.6%）が『男性』（19.9%）に比べ占める割合が高くなっている。

【転出した時の年齢（F2）】別では、どの年代でも「就職・転勤など仕事のため」の割合が高いが、『20歳～24歳』では「就職・転勤など仕事のため」が62.7%と際立って高くなっている。また、『25歳～29歳』で「結婚のため」が36.5%、『35歳～39歳』で「住宅の購入のため」が27.3%と「就職・転勤など仕事のため」を上回っており、他の区分に比べ占める割合が高くなっている。

【転出先の地域（F4）】別では、「就職・転勤など仕事のため」が『東京都区部』で43.4%、『埼玉県』で44.3%、『千葉県』で44.3%と高くなっている。また、『神奈川県横須賀三浦地区』で「住宅の購入のため」が29.9%、『神奈川県湘南地区』で「子育てや子どもの教育のため」が15.9%と他の区分に比べ占める割合が高くなっている。

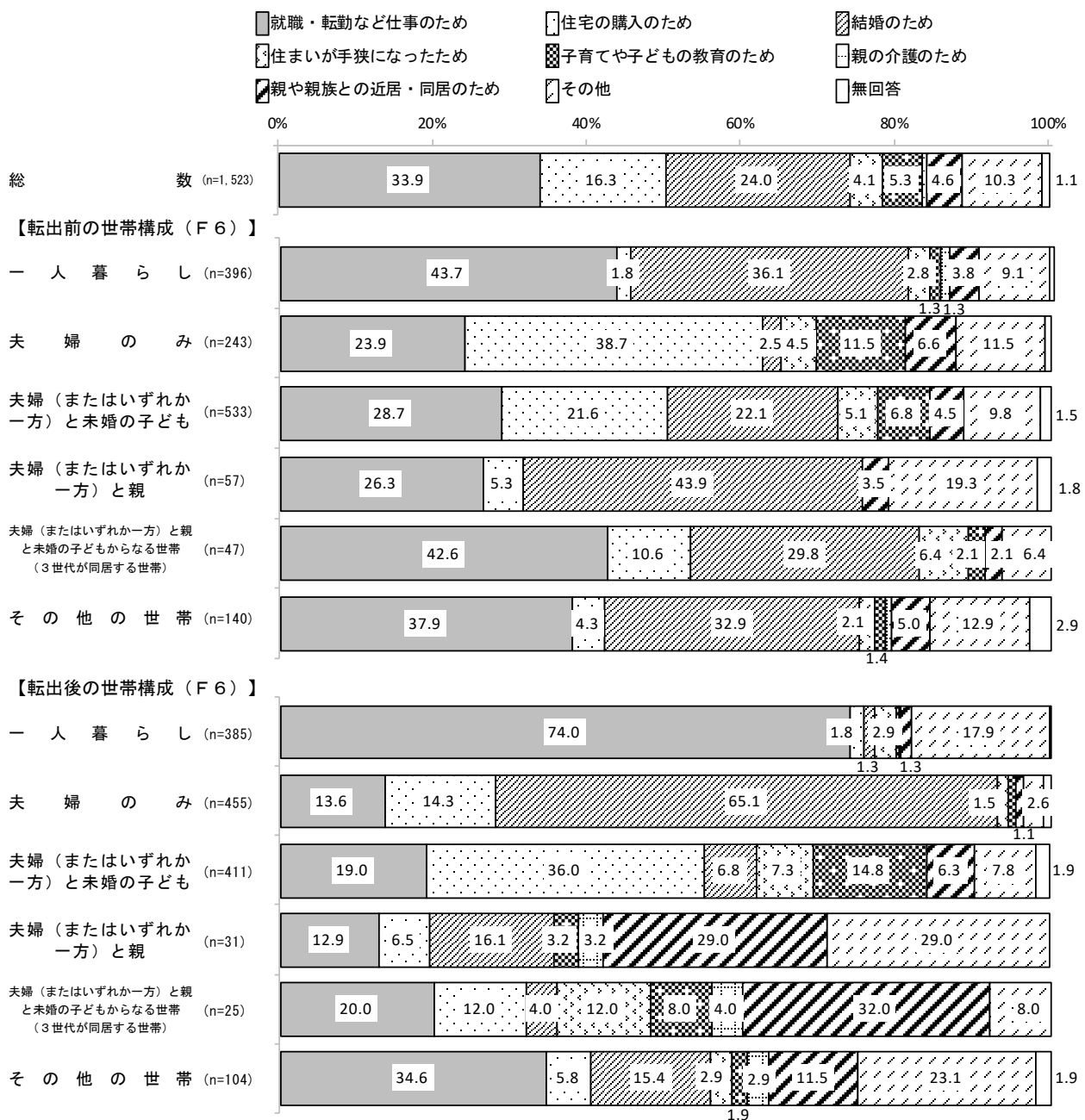




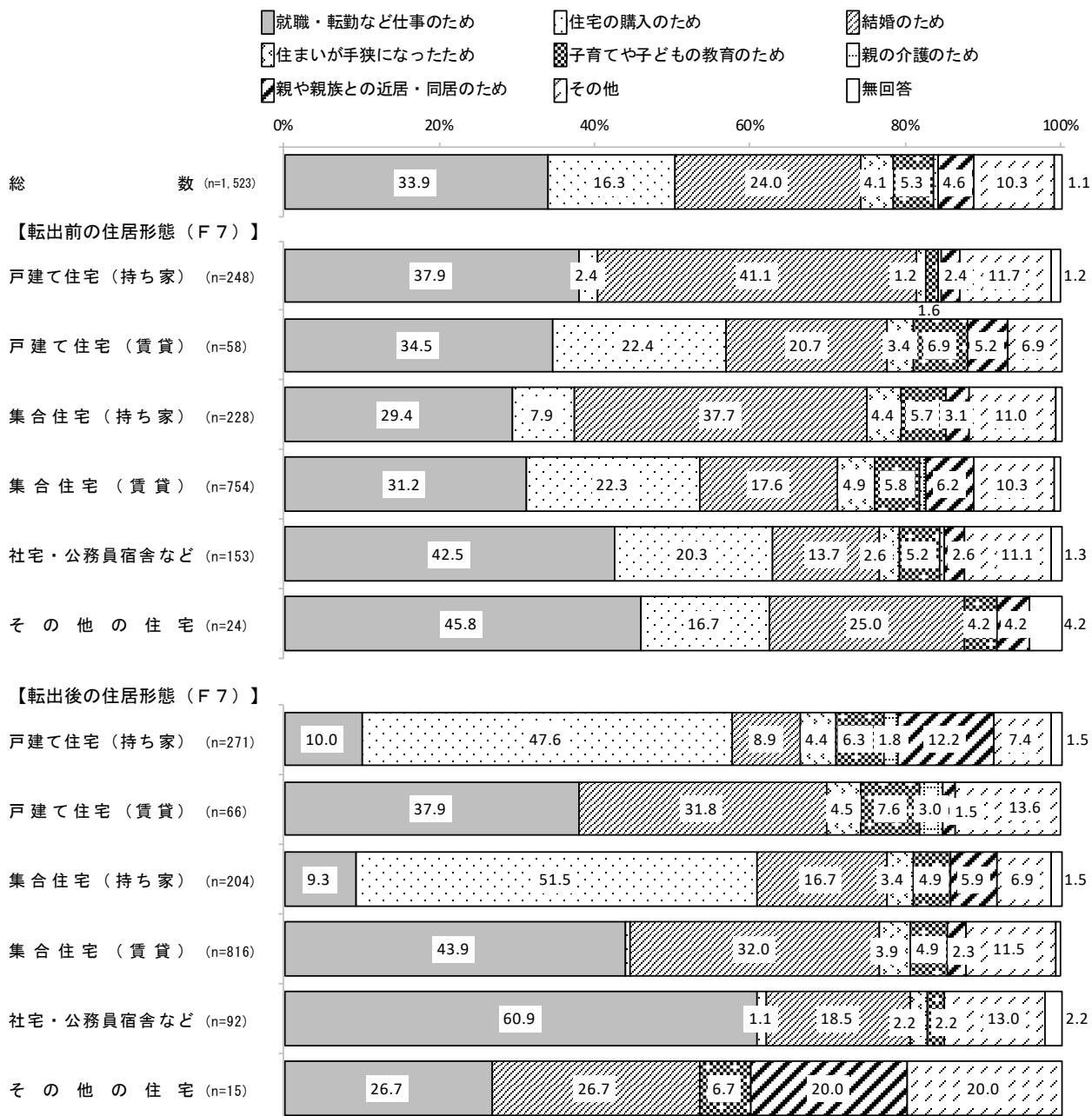


【転出前の世帯構成（F6）】別では、『夫婦のみ』で「住宅の購入のため」が38.7%と高くなっている。また、『夫婦のみ』で「子育てや子どもの教育のため」が11.5%と他の区分に比べ占める割合が高くなっている。「結婚のため」が『夫婦（またはいずれか一方）と親』で43.9%となっており、両親と暮らしていた未婚の子どもが結婚を機に転出したのではないかと推測される。

【転出後の世帯構成（F6）】別では、「住宅の購入のため」が『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』で36.0%と高くなっている。また、「子育てや子どもの教育のため」が『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』で14.8%と他の区分に比べ占める割合が高くなっている。



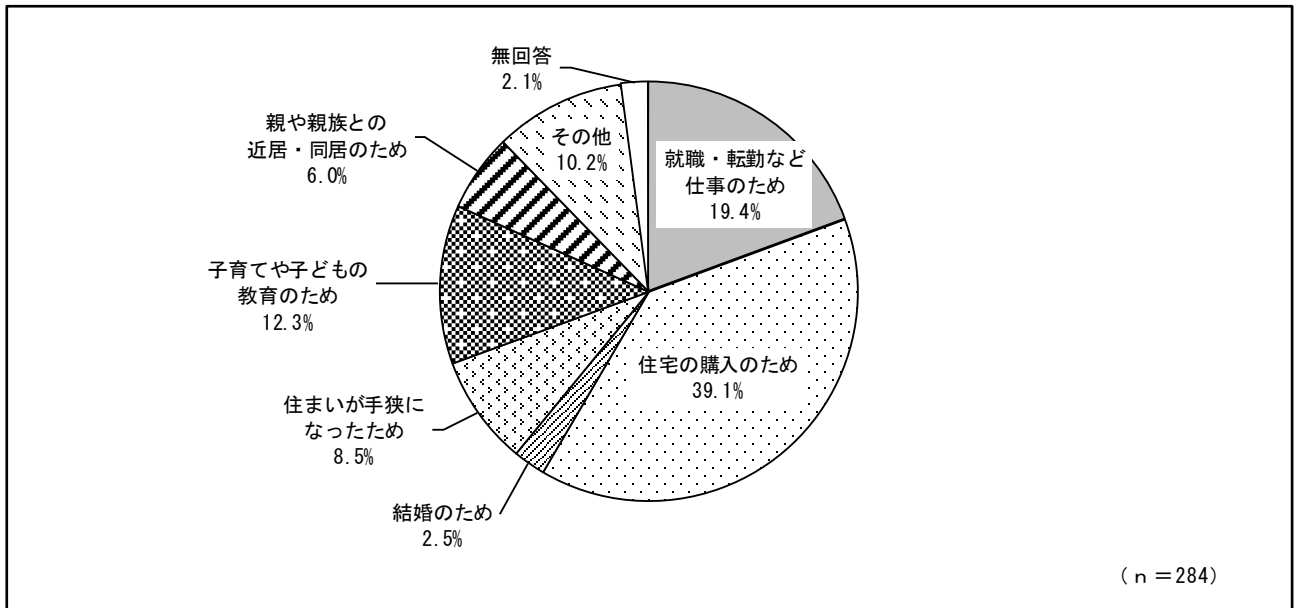
【転出前の住居形態（F7）】別では、『戸建て住宅（持ち家）』と『集合住宅（持ち家）』で「結婚のため」がそれぞれ41.1%、37.7%と高くなっている。これは、親と暮らしていた未婚の子どもが、結婚を機に親元を離れ、独立するために転出したのではないかと推測される。P13の「転出前後の世帯構成・住居形態」において、転出前は《持ち家》で『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』の回答者のうち、約3割が転出後は《賃貸》で『夫婦のみ』となっていることも、それを裏づけていると考えられる。



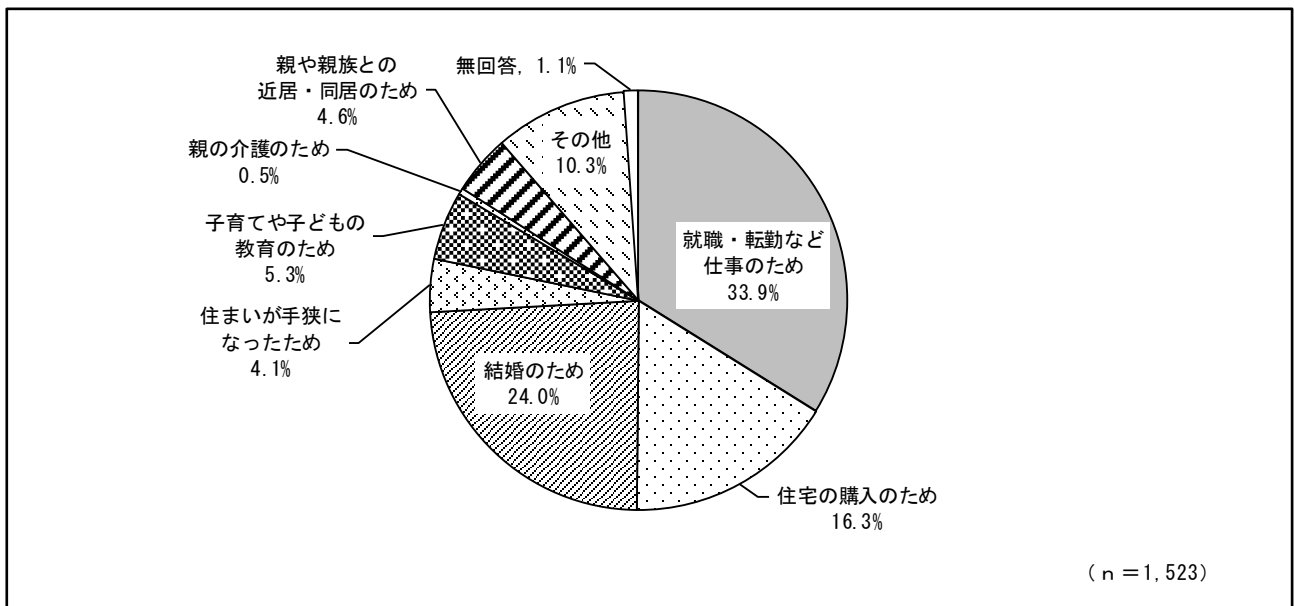


<『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』の転出した一番大きなきっかけ（Q1）>

【世帯構成（F6）】が転出前後ともに『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』の【転出した一番大きなきっかけ（Q1）】は、「住宅の購入のため」が39.1%で最も高く、次いで「就職・転勤など仕事のため」が19.4%、「子育てや子どもの教育のため」が12.3%となっている。全体の傾向と比べて、「住宅の購入のため」及び「子育てや子どもの教育のため」の割合が高くなっている。



<全体の傾向（P15 再掲）>



<転出した一番大きなきっかけ（Q1）の上位4項目について>

【転出した一番大きなきっかけ（Q1）】の上位4項目について、回答件数が多い上位10市区町村及び回答者数が15人以上の市区町村のうち転出した一番大きなきっかけとしている割合が高い上位10市区町村は以下のとおりとなっている。

◆就職・転勤など仕事のため（516件）

No	市区町村名	件数	No	市区町村名	n	件数	(%)
1	神奈川県川崎市	52	1	東京都練馬区	25	15	60.0
2	東京都品川区	26		千葉県千葉市	20	12	60.0
3	神奈川県相模原市	23	3	東京都杉並区	23	13	56.5
4	東京都大田区	22	4	東京都港区	21	11	52.4
5	東京都世田谷区	20	5	東京都江戸川区	31	15	48.4
6	神奈川県藤沢市	17	6	東京都品川区	57	26	45.6
7	東京都練馬区	15	7	東京都八王子市	15	6	40.0
	東京都江戸川区	15	8	埼玉県さいたま市	18	7	38.9
9	東京都杉並区	13		千葉県市川市	18	7	38.9
10	千葉県千葉市	12	10	神奈川県相模原市	63	23	36.5

◆結婚のため（365件）

No	市区町村名	件数	No	市区町村名	n	件数	(%)
1	神奈川県川崎市	70	1	東京都足立区	17	8	47.1
2	東京都大田区	28	2	千葉県市川市	18	8	44.4
3	東京都世田谷区	18	3	東京都大田区	71	28	39.4
4	神奈川県相模原市	17	4	東京都目黒区	30	10	33.3
5	東京都品川区	16	5	東京都世田谷区	59	18	30.5
6	東京都目黒区	10	6	東京都品川区	57	16	28.1
	神奈川県大和市	10	7	神奈川県川崎市	251	70	27.9
	神奈川県横須賀市	10	8	神奈川県相模原市	63	17	27.0
9	神奈川県藤沢市	9	9	神奈川県大和市	38	10	26.3
10	東京都足立区	8	10	東京都江戸川区	31	8	25.8
	千葉県市川市	8					
	東京都江戸川区	8					

◆住宅の購入のため（248件）

No	市区町村名	件数
1	神奈川県川崎市	60
2	東京都町田市	28
3	神奈川県横須賀市	14
	神奈川県藤沢市	14
5	神奈川県茅ヶ崎市	12
6	神奈川県相模原市	10
7	神奈川県鎌倉市	9
8	神奈川県大和市	7
	東京都大田区	7
10	神奈川県平塚市	5
	東京都中央区	5

No	市区町村名	n	件数	(%)
1	東京都町田市	46	28	60.9
2	神奈川県茅ヶ崎市	30	12	40.0
3	神奈川県平塚市	17	5	29.4
4	神奈川県横須賀市	50	14	28.0
5	神奈川県鎌倉市	33	9	27.3
6	神奈川県川崎市	251	60	23.9
7	神奈川県藤沢市	61	14	23.0
8	東京都港区	21	4	19.0
9	神奈川県大和市	38	7	18.4
10	神奈川県相模原市	63	10	15.9

◆子育てや子どもの教育のため（80件）

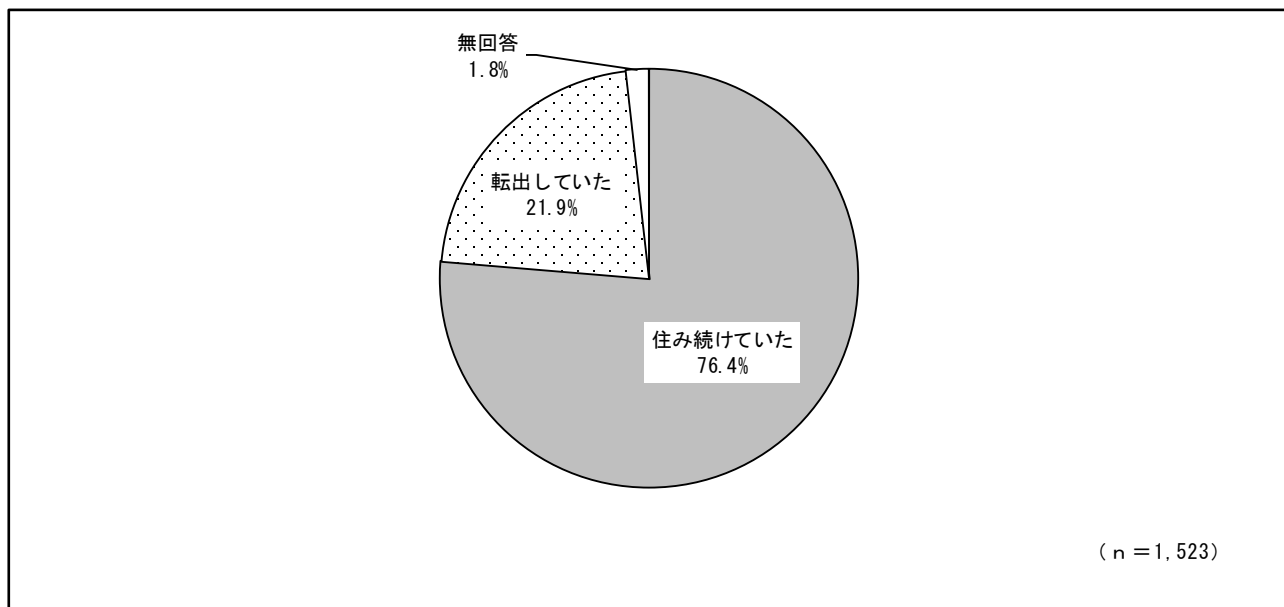
No	市区町村名	件数
1	神奈川県藤沢市	12
2	神奈川県川崎市	8
3	東京都八王子市	4
	神奈川県茅ヶ崎市	4
	神奈川県鎌倉市	4
6	東京都世田谷区	3
	東京都江東区	3
	東京都調布市	3
	神奈川県相模原市	3
	神奈川県秦野市	3

No	市区町村名	n	件数	(%)
1	東京都八王子市	15	4	26.7
2	神奈川県藤沢市	61	12	19.7
3	神奈川県茅ヶ崎市	30	4	13.3
4	神奈川県鎌倉市	33	4	12.1
5	東京都杉並区	23	2	8.7
6	東京都目黒区	30	2	6.7
7	神奈川県平塚市	17	1	5.9
8	埼玉県さいたま市	18	1	5.6
9	東京都世田谷区	59	3	5.1
10	千葉県千葉市	20	1	5.0

(2) 転出した一番大きなきっかけがなければ横浜市に引き続き住んでいたか

Q2 Q1で選択した理由がなければ、そのまま横浜市に引き続き住んでいたか。  
(○は1つだけ)

転出した一番大きなきっかけ(Q1)がなければ横浜市に引き続き住んでいたかは、「引き続き住んでいた」が76.4%となっており、「転出していた」の21.9%を大きく上回っている。



<横浜市に住んでいた期間(F5)別>

【横浜市に住んでいた期間(F5)】別では、「引き続き住んでいた」の割合は、『20年以上』で83.2%と高くなっている。おおむね住んでいた期間が長いほど「引き続き住んでいた」が占める割合が高くなっている。

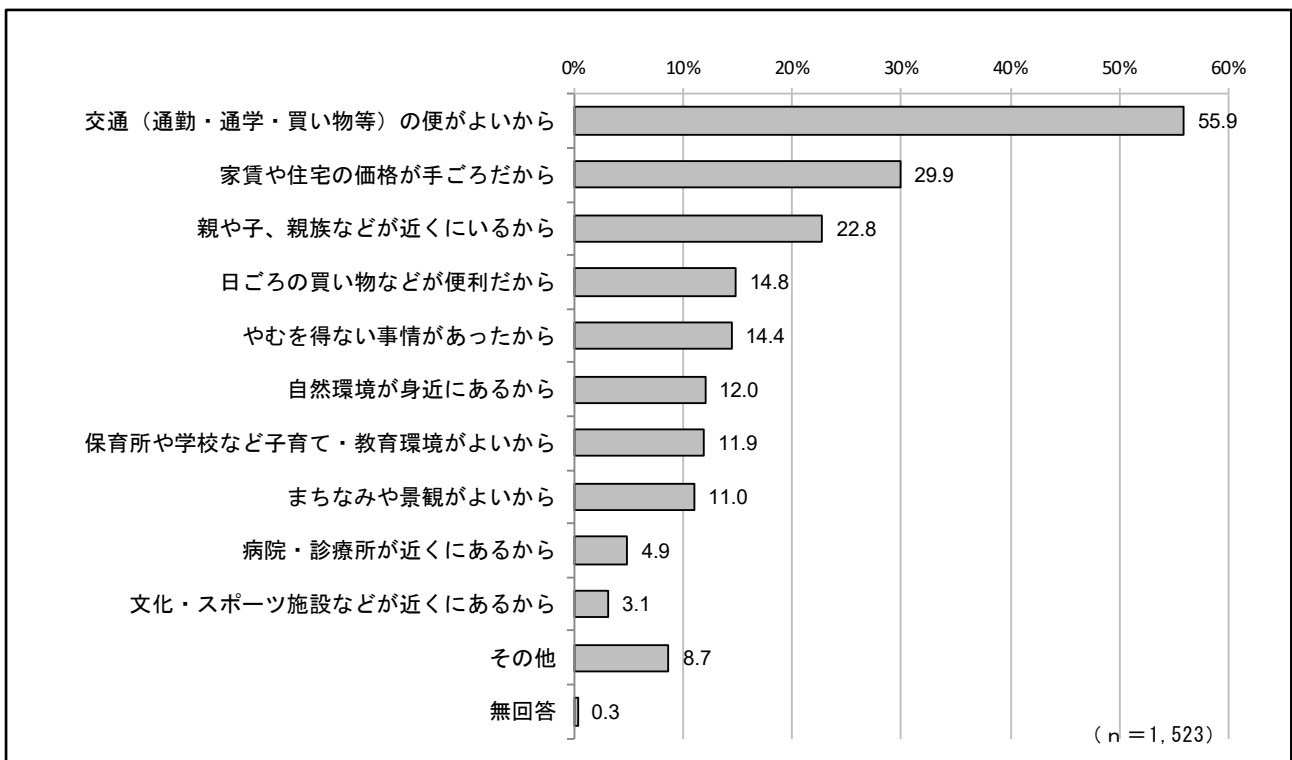
	回答者数	割合 (%)	
		引き続き住んでいた	転出した
総数	1,523	76.4	21.9
1年未満	132	57.6	35.6
1年以上5年未満	532	74.2	23.9
5年以上10年未満	250	78.8	20.0
10年以上20年未満	166	77.7	20.5
20年以上	428	83.2	16.6

### 3 転出先を選んだ理由

#### (1) 横浜市より転出先を選んだ理由（複数回答）

Q3 あなたが居住地として、横浜市よりも転出先を選んだ理由を次の中から選んでください。  
(○はいくつでも)

横浜市より転出先を選んだ理由は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が55.9%と最も高く、次いで「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が29.9%、「親や子、親族などが近くにいるから」が22.8%となっている。



#### <その他の主な理由>

No	その他	件数
1	仕事のため	20
2	配偶者が住んでいたため	14
3	社宅・社員寮があったため	10
	よい物件があったため	10
5	地元だから	6
6	勤務先の家賃補助を受けるため	4
7	治安が良いから	3
	サービスがよいため（医療費補助、周辺施設等）	3

No	その他	件数
7	配偶者の意向	3
	税金	3
	結婚のため	3
12	趣味が楽しめる	2
	転出先に住みたかった	2
	親族の持ち家があったため	2
	夫婦の実家の中間だから	2
	親族の病気・介護のため	2
-	その他	26

<転出先の地域（F4）別>

【転出先の地域（F4）】別では、『東京都区部』で「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が76.3%と際立って高くなっている。

『神奈川県川崎市』及び『神奈川県相模原市』は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が最も高くなっているが、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」も4割以上となっている。また、『神奈川県県央地区』では、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が最も高くなっているが、次に高い「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」も、ほぼ差がなく続いている。

『神奈川県横須賀三浦地区』では、「自然環境が身近にあるから」が44.3%、「まちなみや景観がよいから」が23.7%と他の区分に比べて割合が高くなっている。

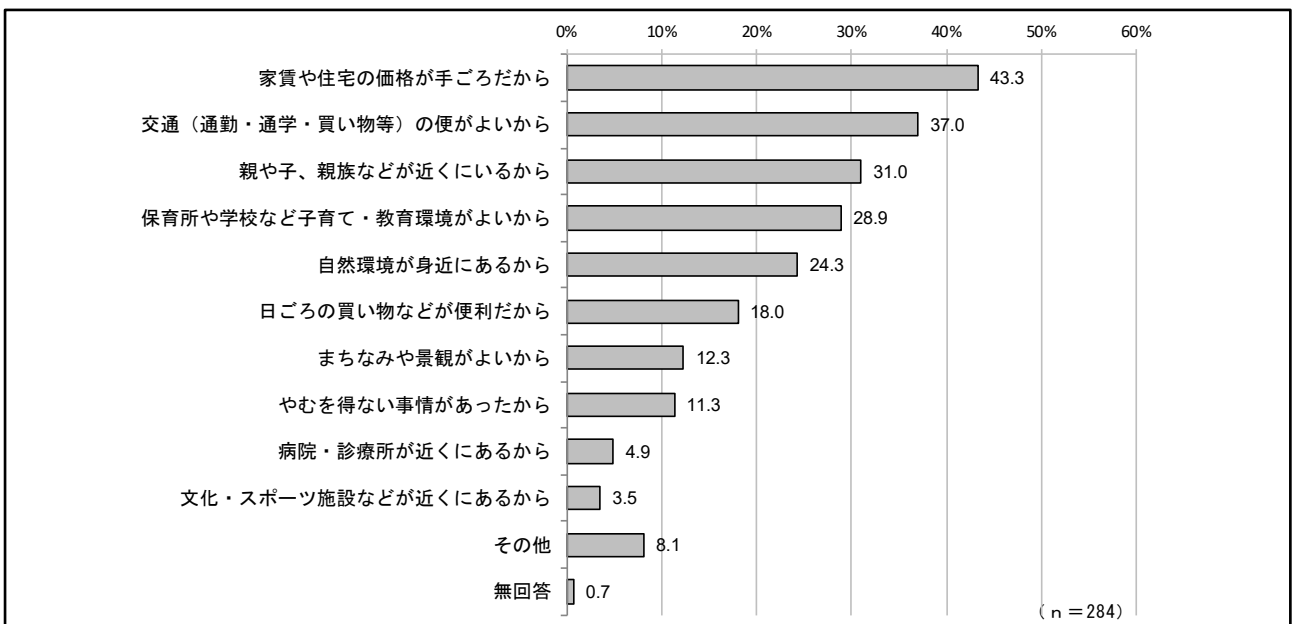
		(%)											
		回答者数	横浜市より転出先を選んだ理由（Q3）										
			等交通（通勤・通学・買い物）の便がよいから	手ごろな家賃や住宅の価格が	近くに親や子、親族などがいるから	自然環境が身近にあるから	日ごろの買い物が便利だから	まちなみや景観がよいから	病院・診療所が近くにあるから	保育所や学校など子育て・教育環境がよいから	文化・スポーツ施設などがあるから	あつたからやむを得ない事情が	その他
転出先の地域（F4）	総数	1,523	55.9	29.9	22.8	12.0	14.8	11.0	4.9	11.9	3.1	8.7	14.4
	東京都区部	486	76.3	14.8	15.6	3.5	17.9	10.7	6.2	11.3	5.8	8.0	9.9
	東京都区部以外	164	49.4	28.0	28.0	17.7	9.1	12.2	1.8	17.7	3.0	10.4	15.9
	神奈川県川崎市	251	65.7	40.6	18.3	6.4	20.7	8.4	6.8	9.6	2.0	5.2	10.4
	神奈川県相模原市	63	52.4	41.3	27.0	4.8	19.0	1.6	3.2	4.8	1.6	4.8	22.2
	神奈川県県央地区	87	44.8	48.3	23.0	11.5	11.5	5.7	3.4	11.5	2.3	4.6	20.7
	神奈川県湘南地区	126	26.2	40.5	33.3	29.4	11.1	16.7	4.0	17.5	1.6	9.5	12.7
	神奈川県横須賀三浦地区	97	16.5	33.0	33.0	44.3	7.2	23.7	3.1	14.4	2.1	18.6	14.4
	神奈川県内その他	16	43.8	25.0	12.5	25.0	6.3	6.3	0.0	6.3	0.0	37.5	31.3
	埼玉県	97	47.4	38.1	33.0	11.3	12.4	11.3	8.2	12.4	2.1	11.3	21.6
	千葉県	115	40.9	32.2	24.3	9.6	10.4	8.7	2.6	8.7	0.0	7.0	23.5

最も割合が高い選択肢

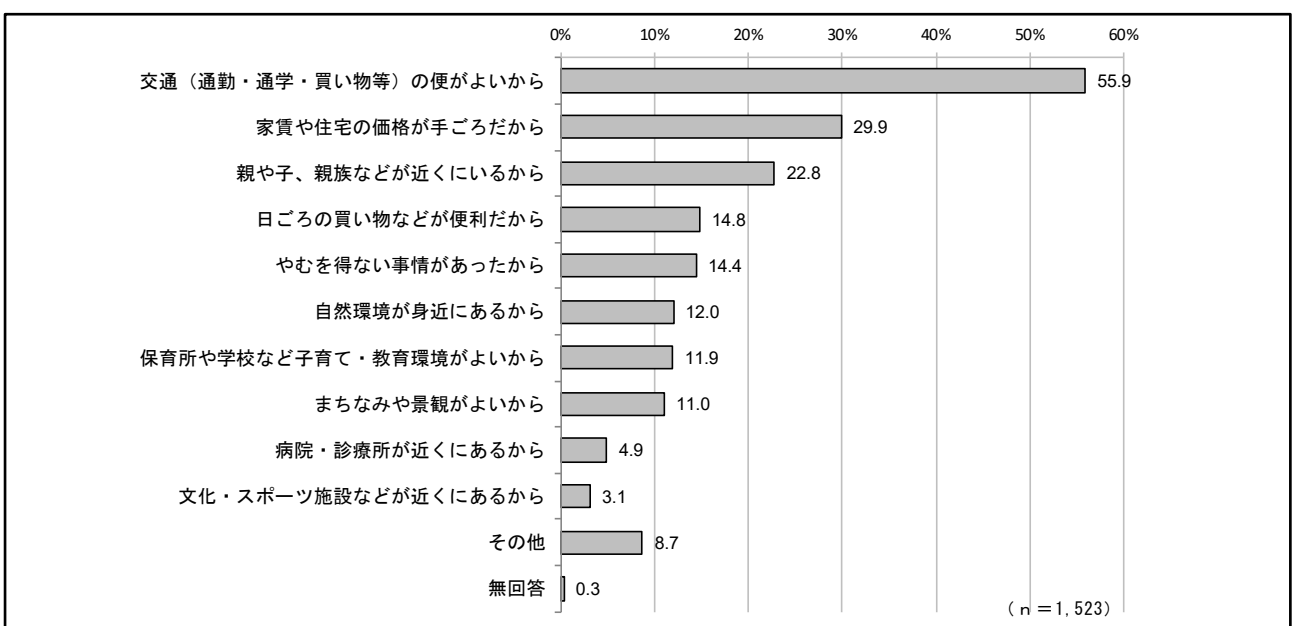
<『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』の転出先を選んだ理由（Q3）>

【世帯構成（F6）】が転出前後ともに『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』の【転出先を選んだ理由（Q3）】は、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が43.3%で最も高く、次いで「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が37.0%、「親や子、親族などが近くにいるから」が31.0%となっている。

全体の傾向と比べて、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」と「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が逆になっており、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」がより重視されている。



<全体の傾向（P25 再掲）>




<転出した一番大きなきっかけ（Q1）別>

【転出した一番大きなきっかけ（Q1）】別では、『就職・転勤など仕事のため』及び『結婚のため』で「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」がそれぞれ76.9%、58.6%と高くなっている。また、『住宅の購入のため』で「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が56.5%と高くなっている。

『子育てや子どもの教育のため』で「保育所や学校など子育て・教育環境がよいから」が62.5%、「自然環境が身近にあるから」が31.3%、「まちなみや景観がよいから」が22.5%と他の区分に比べて割合が高くなっている。

(%)

		回答者数	横浜市より転出先を選んだ理由（Q3）										
			等）交通（通勤・通学・買い物）の便がよいから	手ごろだから	親や子、親族などが	自然環境が身近にあるから	便利だから	まちなみや景観がよいから	病院・診療所が近くに	保育所や学校など子育て・教育環境がよいから	文化・スポーツ施設などが	あつたから	やむを得ない事情が
転出した一番大きなきっかけ（Q1）	総数	1,523	55.9	29.9	22.8	14.8	14.4	12.0	11.9	11.0	4.9	3.1	8.7
	就職・転勤など仕事のため	516	76.9	18.8	9.1	5.6	14.5	7.8	4.1	4.5	2.3	17.4	7.4
	住宅の購入のため	248	35.5	56.5	31.0	25.0	16.1	16.5	4.0	21.4	2.4	2.8	4.4
	結婚のため	365	58.6	25.5	25.2	4.7	11.0	7.9	4.7	6.0	3.0	12.6	12.6
	住まいが手狭になったため	63	47.6	55.6	25.4	22.2	14.3	17.5	4.8	22.2	6.3	4.8	7.9
	子育てや子どもの教育のため	80	23.8	28.8	38.8	31.3	12.5	22.5	2.5	62.5	5.0	8.8	3.8
	親の介護のため	8	12.5	12.5	62.5	12.5	-	12.5	-	-	-	62.5	12.5
	親や親族との近居・同居のため	70	17.1	14.3	77.1	8.6	10.0	5.7	1.4	5.7	-	27.1	5.7
	その他	157	53.5	31.8	12.7	14.6	25.5	14.0	10.8	5.1	6.4	24.8	14.6

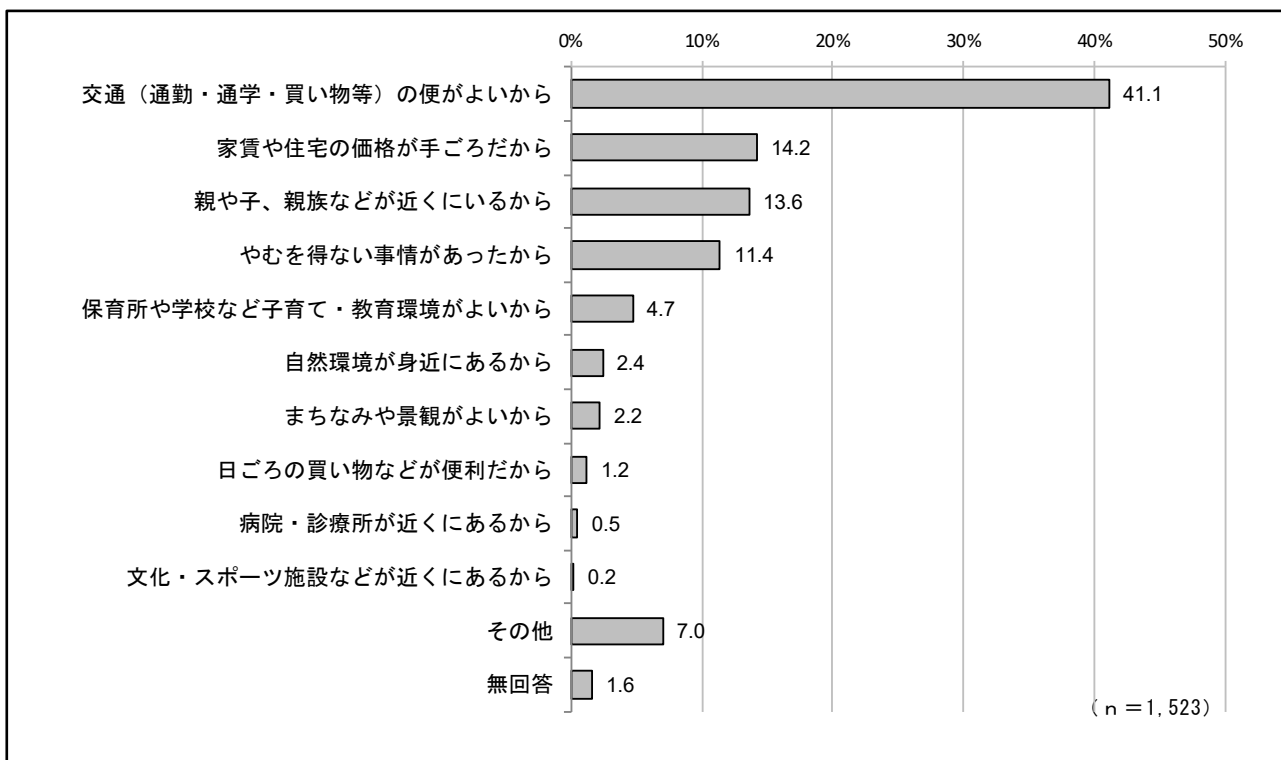
 転出した一番大きなきっかけ別の最も割合が多い選択肢



## (2) 横浜市より転出先を選んだ一番大きな理由

Q3-1 あなたが居住地として、横浜市よりも転出先を選んだ一番大きな理由の番号を記入してください。

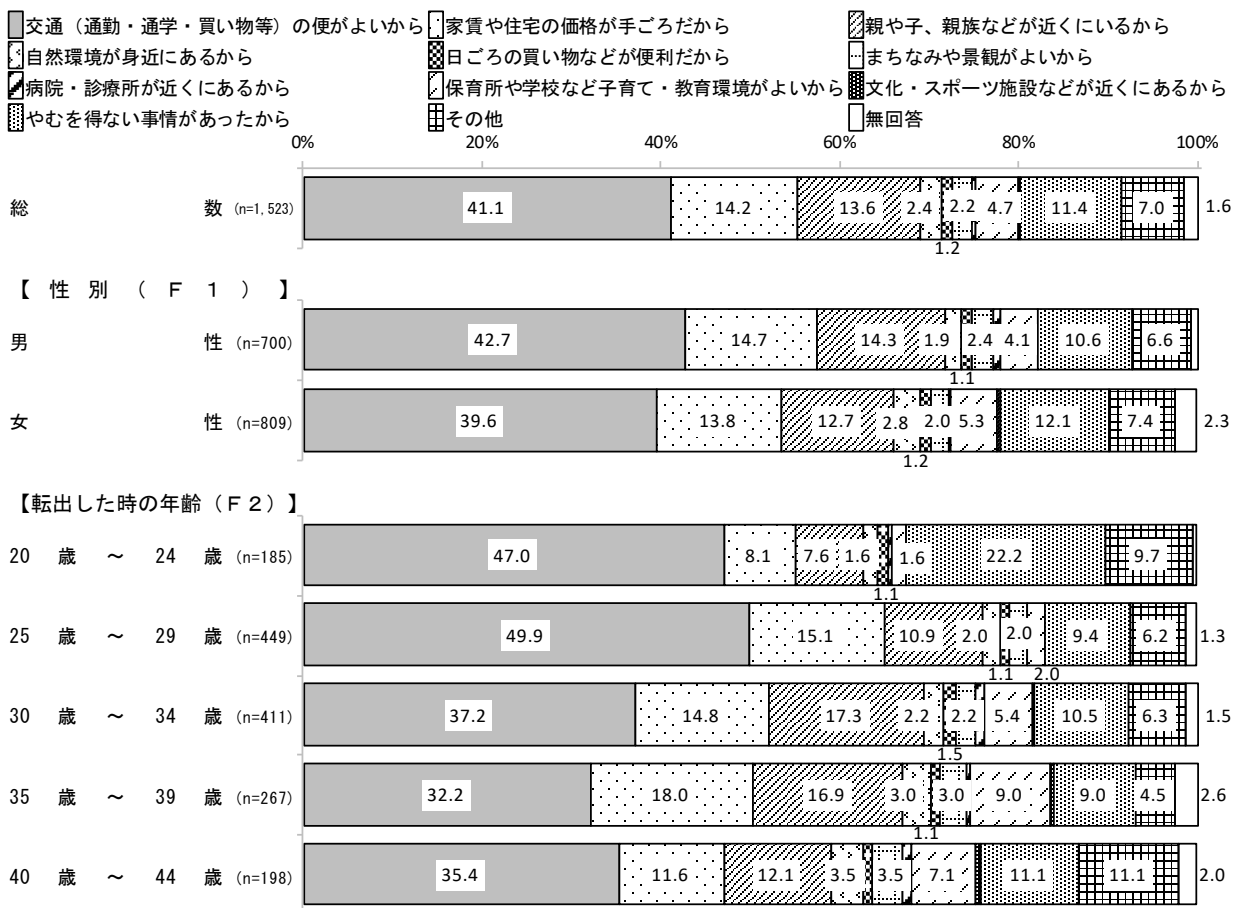
横浜市より転出先を選んだ一番大きな理由は、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が41.1%と最も高く、次いで「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が14.2%、「親や子、親族などが近くにいるから」が13.6%となっている。

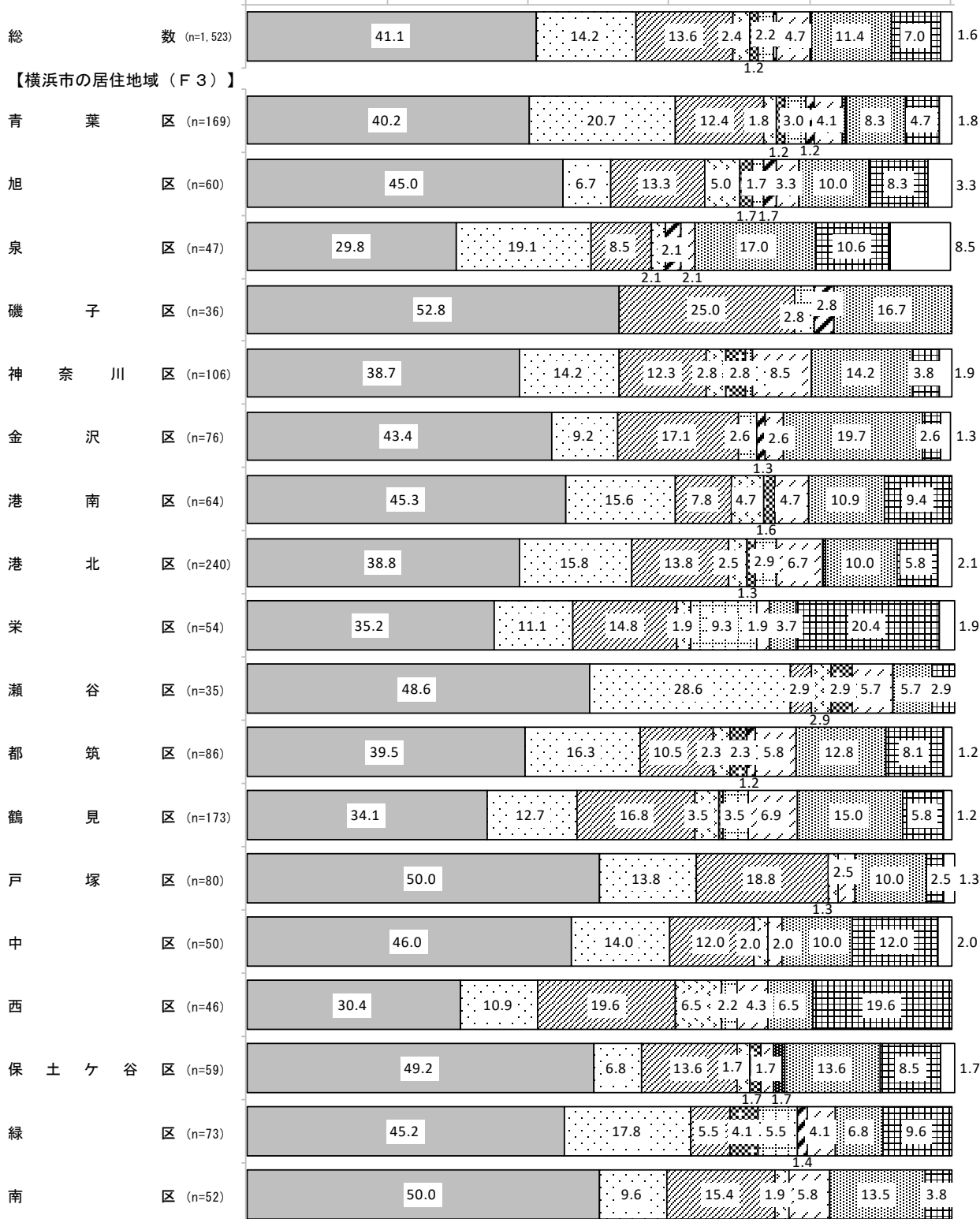
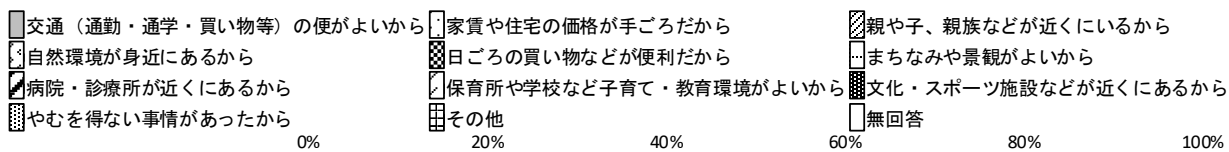


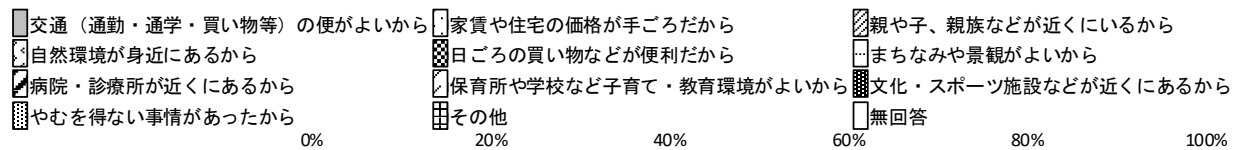
<属性別>

【転出した時の年齢（F 2）】別では、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」がすべての区分で最も高くなっている。『20歳～24歳』で「やむを得ない事情があったから」が22.2%と他の区分に比べて占める割合が高くなっている。

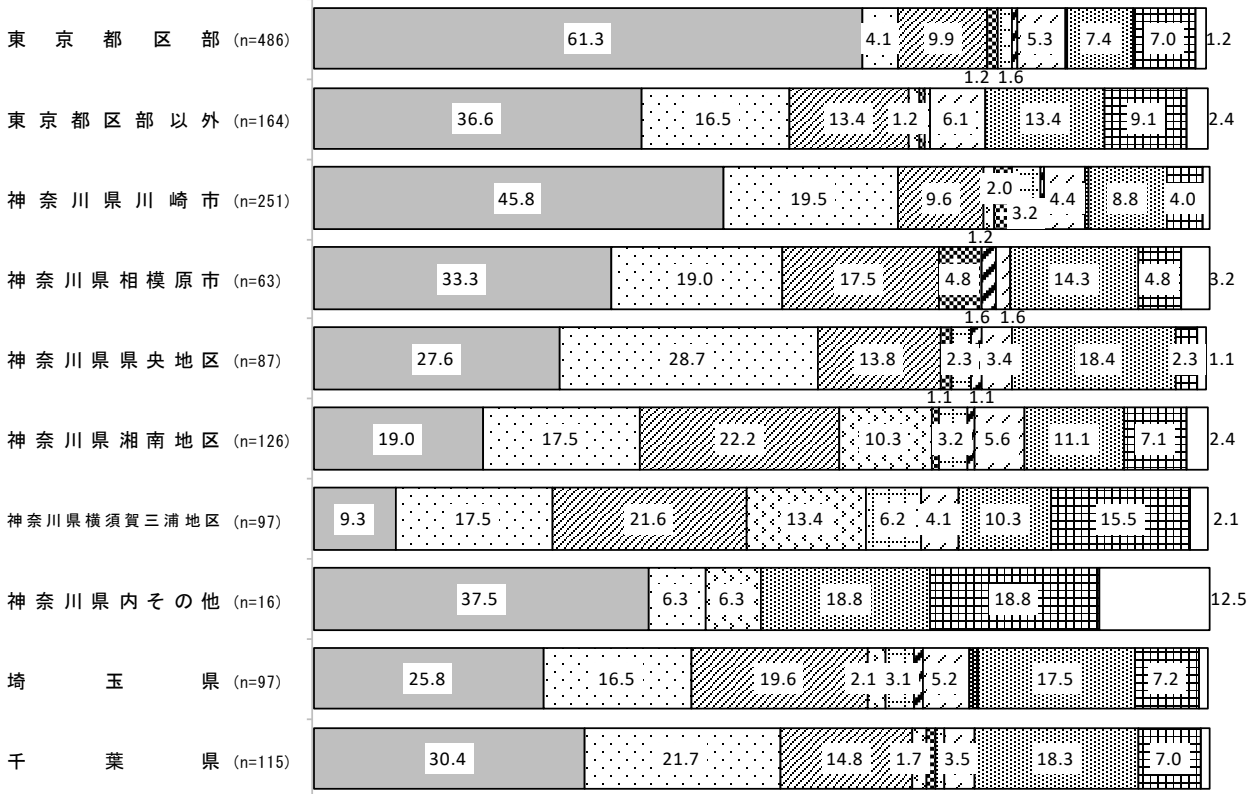
【転出先の地域（F 4）】別では、『東京都区部』で「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が61.3%と高くなっている。また、『神奈川県県央地区』で「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が28.7%、『神奈川県湘南地区』で「親や子、親族などが近くにいるから」が22.2%、『神奈川県横須賀三浦地区』で「自然環境が身近にあるから」が13.4%と他の区分に比べて占める割合が高くなっている。



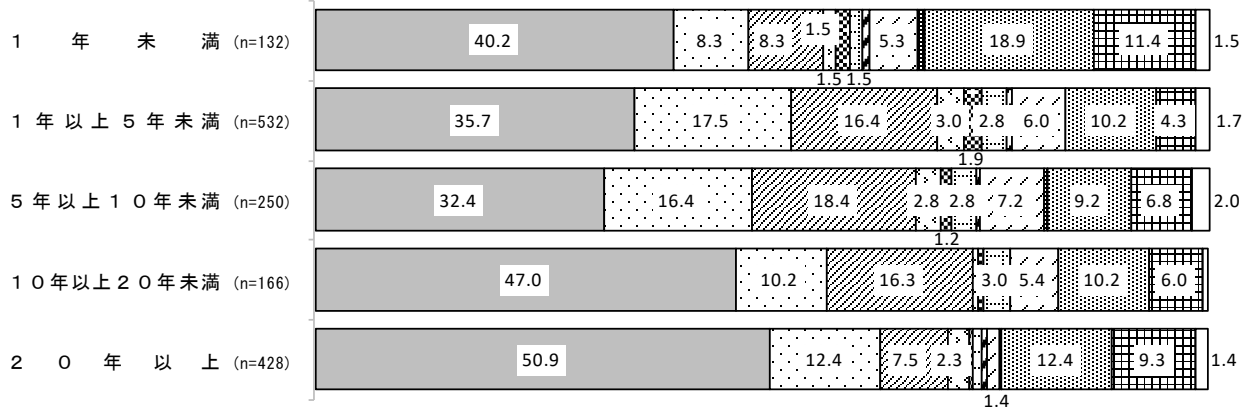




【転出先の地域（F4）】

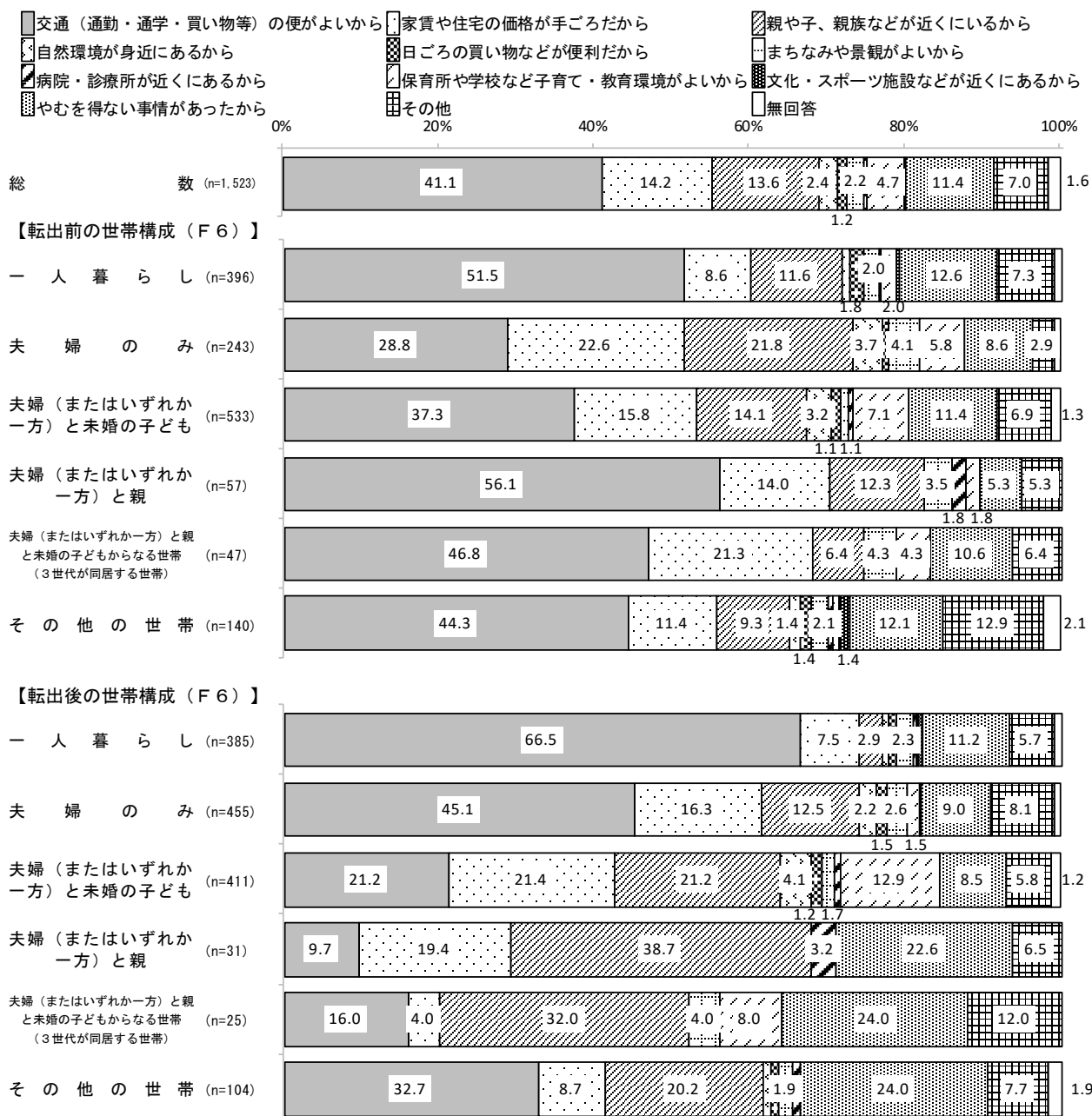


【横浜市での居住期間（F5）】



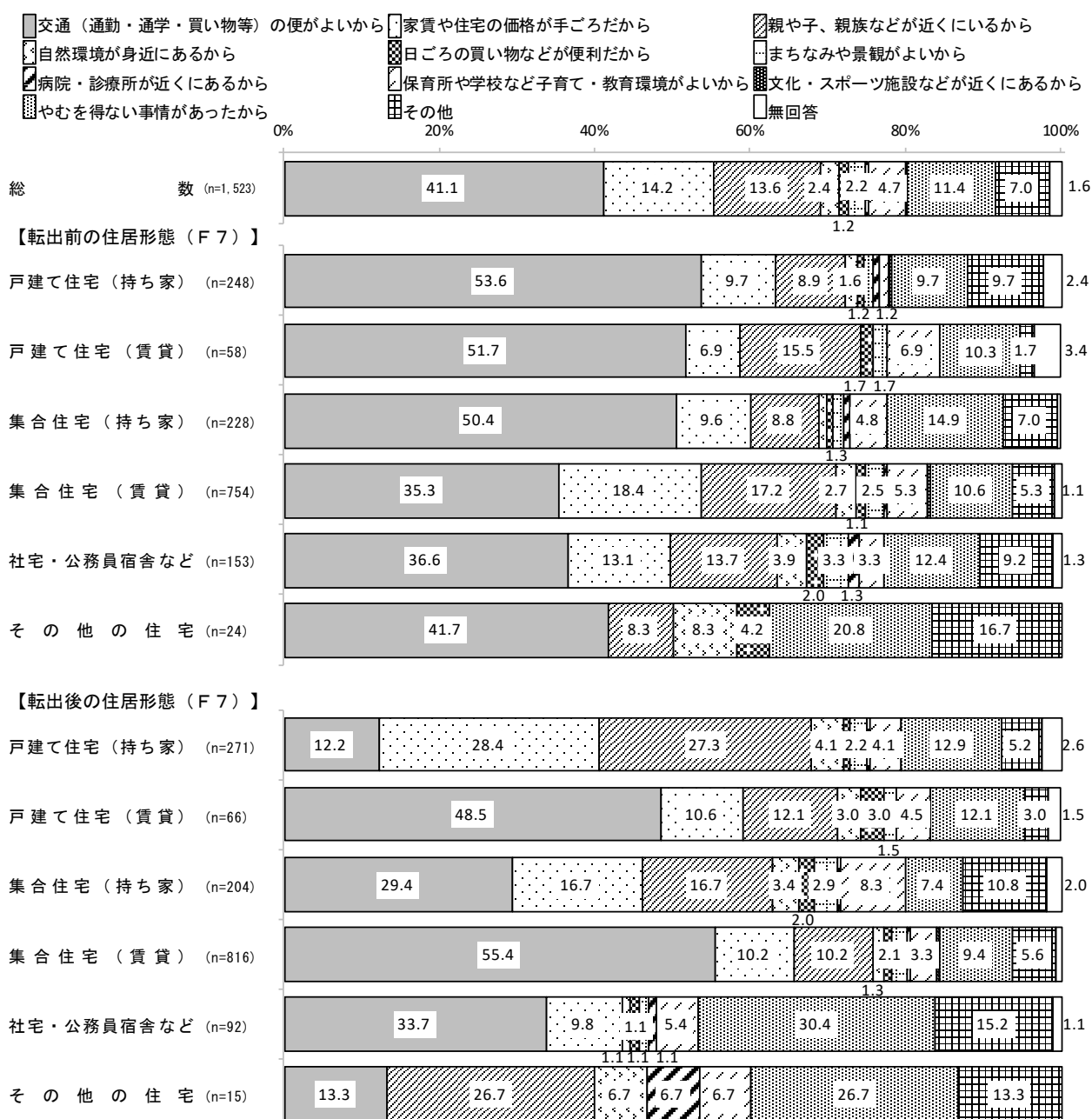
【転出前の世帯構成（F6）】別では、『夫婦のみ』で、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が22.6%、「親や子、親族などが近くにいるから」が21.8%と他の区分に比べ占める割合が高くなっている。

【転出後の世帯構成（F6）】別では、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が『一人暮らし』で66.5%と際立って高くなっている。また、『夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども』で「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が21.4%と高くなっている。



【転出前の住居形態（F7）】別では、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」がすべての住居形態で最も高くなっている。

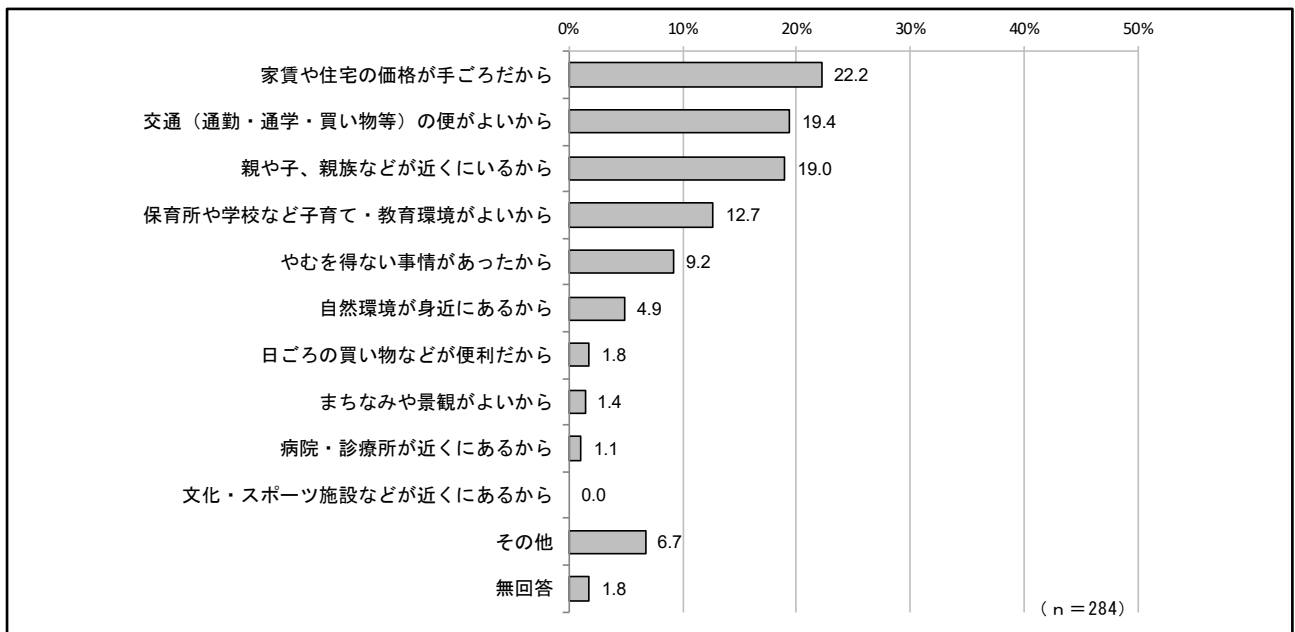
【転出後の住居形態（F7）】別では、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」が戸建て住宅・集合住宅ともに持ち家（12.2%、29.4%）に比べ賃貸（48.5%、55.4%）の割合が高くなっている。『戸建て住宅（持ち家）』では、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が28.4%、「親や子、親族などが近くにいるから」が27.3%と他の区分に比べ占める割合が高くなっている。



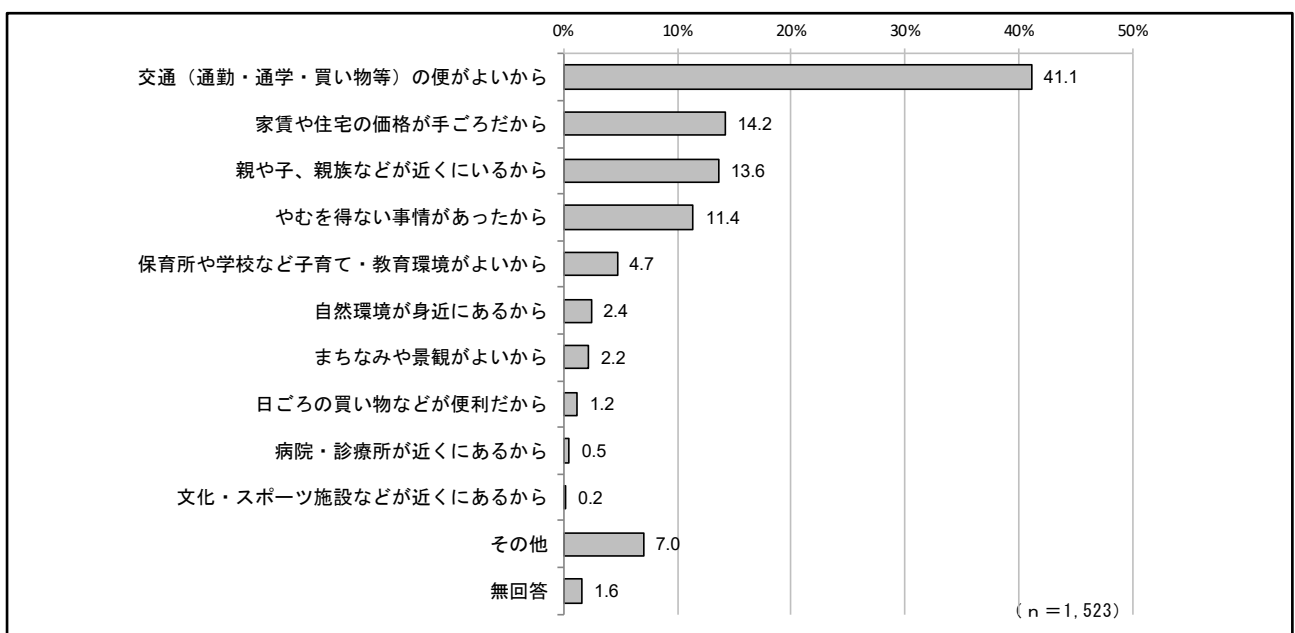
<『夫婦(またはいずれか一方)と未婚の子ども』の転出先を選んだ一番大きな理由(Q3-1)>

【世帯構成(F6)】が転出前後ともに『夫婦(またはいずれか一方)と未婚の子ども』の【転出先を選んだ一番大きな理由(Q3-1)】は、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が22.2%で最も高く、次いで「交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから」が19.4%、「親や子、親族などが近くにいるから」が19.0%となっている。

全体の傾向と比べて、「交通(通勤・通学・買い物等)の便がよいから」の割合が大きく下がり、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」、「親や子、親族などが近くにいるから」及び「保育所や学校など子育て・教育環境がよいから」の割合が高くなっている。



<全体の傾向(P29再掲)>



<転出した一番大きなきっかけ（Q1）別>


【転出した一番大きなきっかけ（Q1）】別では、『就職・転勤など仕事のため』及び『結婚のため』において、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」がそれぞれ 66.1%、43.8%と最も高くなっている。

『住宅の購入のため』で「家賃や住宅の価格が手ごろだから」が 38.3%と高くなっている。

『子育てや子どもの教育のため』で「保育所や学校など子育て・教育環境がよいから」が 41.3%と高くなっている。

(%)

		回答者数	横浜市より転出先を選んだ一番大きな理由（Q3-1）										
			交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから	家賃や住宅の価格が手ごろだから	親や子、親族などが近くに	自然環境が身近にあるから	日ごろの買い物などが便利だから	まちなみや景観がよいから	病院・診療所が近くに	保育所や学校など子育て・教育環境がよいから	文化・スポーツ施設などが近くに	やむを得ない事情があつたから	その他
転出した一番大きなきっかけ（Q1）	総数	1,523	41.1	14.2	13.6	2.4	1.2	2.2	0.5	4.7	0.2	7.0	11.4
	就職・転勤など仕事のため	516	66.1	5.2	3.3	1.0	0.8	1.4	-	1.6	-	5.6	13.6
	住宅の購入のため	248	20.2	38.3	16.1	5.2	2.0	4.4	0.4	6.0	-	3.6	1.6
	結婚のため	365	43.8	11.0	15.9	1.1	1.4	1.1	0.5	1.6	0.3	11.5	11.2
	住まいが手狭になったため	63	19.0	31.7	15.9	6.3	1.6	3.2	-	7.9	-	6.3	3.2
	子育てや子どもの教育のため	80	10.0	8.8	22.5	6.3	-	3.8	-	41.3	-	1.3	5.0
	親の介護のため	8	-	12.5	37.5	-	-	-	-	-	-	-	37.5
	親や親族との近居・同居のため	70	7.1	1.4	64.3	-	-	-	-	1.4	-	2.9	22.9
	その他	157	30.6	14.0	7.6	3.2	1.9	3.8	3.2	1.9	1.3	12.7	19.1

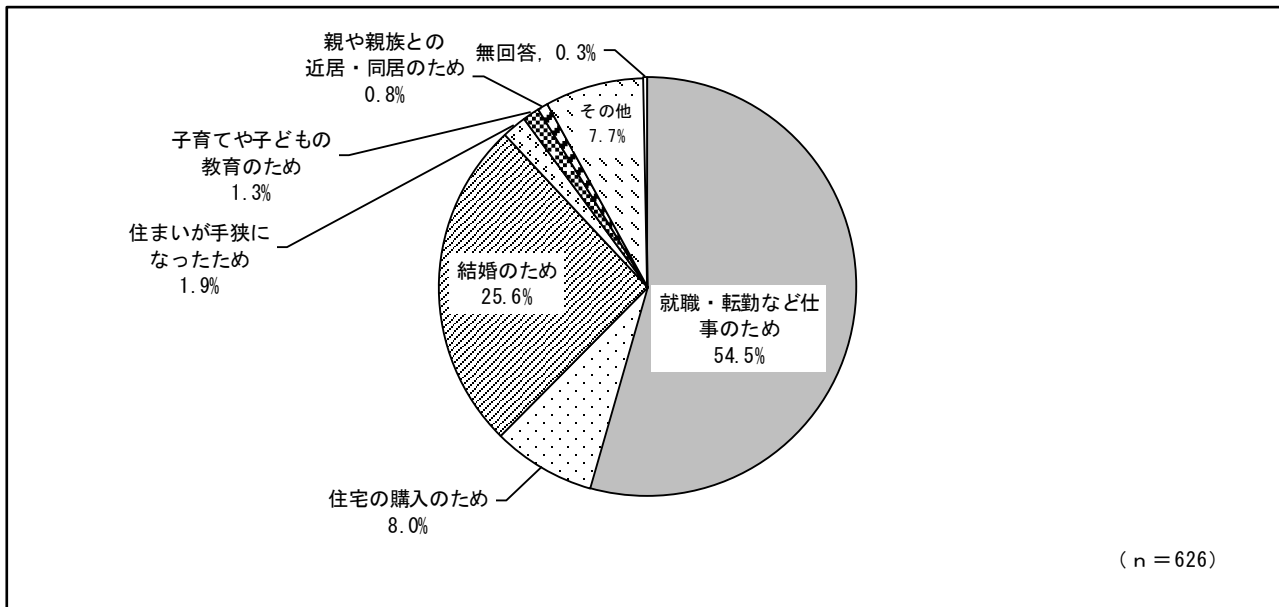
 転出した一番大きなきっかけ別の最も割合が多い選択肢



＜転出先を選んだ一番大きな理由（Q3-1）の上位4項目について＞

1) 『交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから』

【転出した一番大きなきっかけ（Q1）】は「就職・転勤などの仕事のため」が54.5%と最も高く、次いで「結婚のため」が25.6%、「住宅の購入のため」が8.0%となっている。



また、「交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから」について、回答件数が多い上位10市区町村及び回答者数が15人以上の市区町村のうち転出先を選んだ一番大きな理由としている割合が高い上位10市区町村は以下のとおりとなっている。

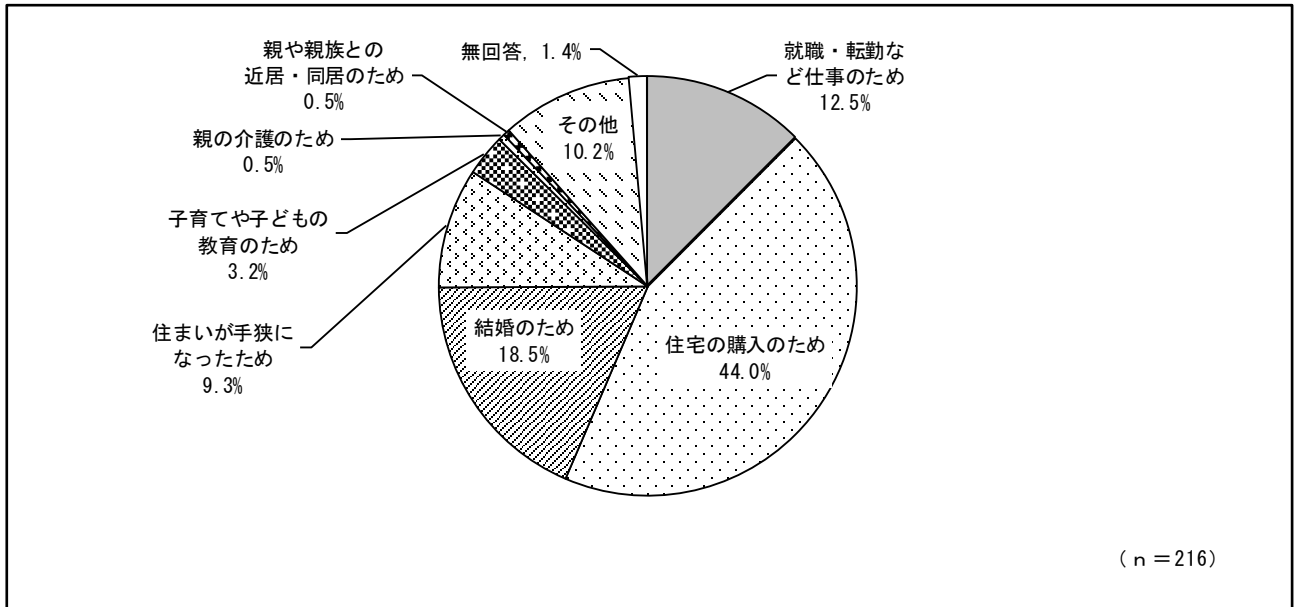
東京都区部が上位を占めている。今回の調査が東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）に転出した方を対象としたため、より勤務先が近い地域へ転出したのではないかと推測される。

No	市区町村名	件数
1	神奈川県川崎市	115
2	東京都品川区	43
3	東京都世田谷区	40
4	東京都大田区	37
5	東京都目黒区	22
6	神奈川県相模原市	21
7	東京都練馬区	17
8	東京都杉並区	16
9	神奈川県藤沢市	14
10	東京都港区	12
	東京都江戸川区	12

No	市区町村名	n	件数	(%)
1	東京都品川区	57	43	75.4
2	東京都目黒区	30	22	73.3
3	東京都杉並区	23	16	69.6
4	東京都練馬区	25	17	68.0
5	東京都世田谷区	59	40	67.8
6	東京都港区	21	12	57.1
7	東京都大田区	71	37	52.1
8	神奈川県川崎市	251	115	45.8
9	千葉県市川市	18	7	38.9
10	東京都江戸川区	31	12	38.7

## 2) 『家賃や住宅の価格が手ごろだから』

【転出した一番大きなきっかけ (Q1)】は「住宅の購入のため」が 44.0%と最も高く、次いで「結婚のため」が 18.5%、「就職・転勤などの仕事のため」が 12.5%となっている。

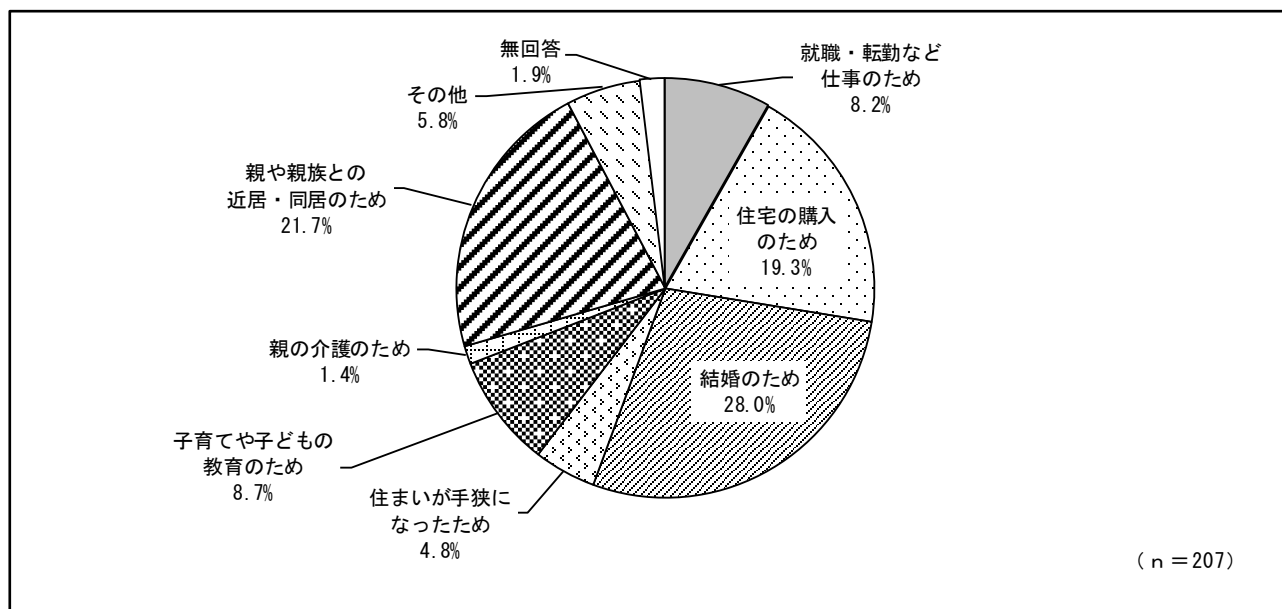


また、「家賃や住宅の価格が手ごろだから」について、回答件数が多い上位 10 市区町村及び回答者数が 15 人以上の市区町村のうち転出先を選んだ一番大きな理由としている割合が高い上位 10 市区町村は以下のとおりとなっている。

No	市区町村名	件数	No	市区町村名	n	件数	(%)
1	神奈川県川崎市	49	1	神奈川県大和市	38	18	47.4
2	東京都町田市	20	2	東京都町田市	46	20	43.5
3	神奈川県大和市	18	3	千葉県千葉市	20	5	25.0
4	神奈川県相模原市	12	4	神奈川県茅ヶ崎市	30	7	23.3
5	神奈川県横須賀市	11	5	千葉県市川市	18	4	22.2
6	神奈川県藤沢市	9	6	神奈川県横須賀市	50	11	22.0
7	神奈川県茅ヶ崎市	7	7	神奈川県川崎市	251	49	19.5
8	千葉県千葉市	5	8	神奈川県相模原市	63	12	19.0
	千葉県松戸市	5	9	東京都足立区	17	3	17.6
10	千葉県市川市	4	10	神奈川県藤沢市	61	9	14.8
	東京都大田区	4					
	神奈川県秦野市	4					

### 3) 『親や子、親族などが近くにいるから』

【転出した一番大きなきっかけ (Q1)】は「結婚のため」が 28.0%と最も高く、次いで「親や親族との近居・同居のため」が 21.7%、「住宅の購入のため」が 19.3%となっている。

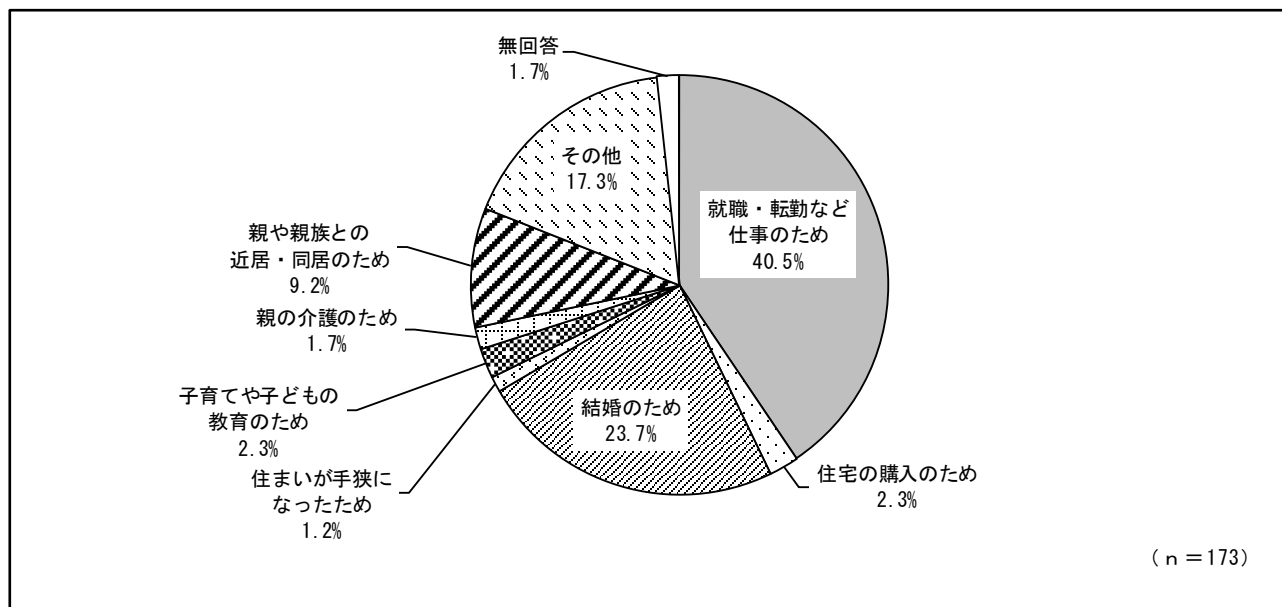


また、「親や子、親族などが近くにいるから」について、回答件数が多い上位 10 市区町村及び回答者数が 15 人以上の市区町村のうち転出先を選んだ一番大きな理由としている割合が高い上位 10 市区町村は以下のとおりとなっている。

No	市区町村名	件数	No	市区町村名	n	件数	(%)
1	神奈川県川崎市	24	1	東京都八王子市	15	5	33.3
2	神奈川県横須賀市	16	2	神奈川県横須賀市	50	16	32.0
	神奈川県藤沢市	16	3	神奈川県藤沢市	61	16	26.2
4	神奈川県相模原市	11	4	神奈川県平塚市	17	4	23.5
5	神奈川県茅ヶ崎市	7	5	神奈川県茅ヶ崎市	30	7	23.3
6	東京都大田区	6	6	埼玉県さいたま市	18	4	22.2
7	東京都八王子市	5	7	東京都練馬区	25	5	20.0
	東京都練馬区	5	8	東京都足立区	17	3	17.6
	神奈川県鎌倉市	5	9	神奈川県相模原市	63	11	17.5
	東京都世田谷区	5	10	神奈川県鎌倉市	33	5	15.2
	神奈川県大和市	5					

#### 4) 『やむを得ない事情があったから』

【転出した一番大きなきっかけ（Q1）】は「就職・転勤などの仕事のため」が40.5%と最も高く、次いで「結婚のため」が23.7%、「親や親族との近居・同居のため」が9.2%となっている。



また、「やむを得ない事情があったから」について、回答件数が多い上位10市区町村及び回答者数が15人以上の市区町村のうち転出先を選んだ一番大きな理由としている割合が高い上位10市区町村は以下のとおりとなっている。

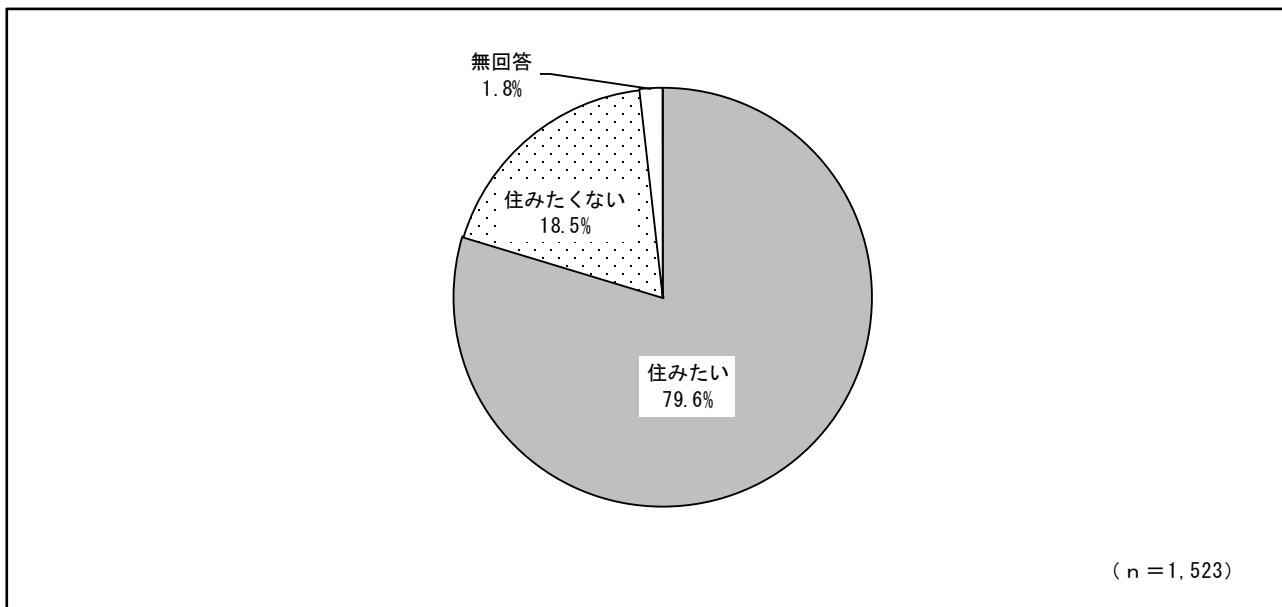
No	市区町村名	件数	No	市区町村名	n	件数	(%)
1	神奈川県川崎市	22	1	千葉県市川市	18	6	33.3
2	神奈川県相模原市	9	2	東京都江戸川区	31	6	19.4
3	東京都大田区	8	3	神奈川県平塚市	17	3	17.6
4	千葉県市川市	6	4	神奈川県相模原市	63	9	14.3
	東京都江戸川区	6	5	東京都八王子市	15	2	13.3
	神奈川県横須賀市	6	6	神奈川県横須賀市	50	6	12.0
7	神奈川県藤沢市	5	7	東京都大田区	71	8	11.3
	神奈川県厚木市	5	8	埼玉県さいたま市	18	2	11.1
9	東京都品川区	4	9	東京都目黒区	30	3	10.0
	東京都町田市	4		千葉県千葉市	20	2	10.0
	東京都府中市	4					

#### 4 横浜市への再転入意向

##### (1) 横浜市への再転入意向

Q 4 事情が許すなら、また横浜市に住みたいと思いますか。(○は1つだけ)

事情が許すなら、また横浜に住みたいと思うかは、「住みたい」が 79.6%と「住みたくない」の 18.5%を大きく上回っている。



##### <横浜市に住んでいた期間 (F 5) 別>

【横浜市に住んでいた期間 (F 5)】別では、「住みたい」の割合は、『20年以上』で 89.7%と高くなっている。住んでいた期間が長いほど「住みたい」の割合が高くなっている。

	回答者数	住みたい (%)	住みたくない (%)
総数	1,523	79.6	18.5
1年未満	132	63.6	32.6
1年以上5年未満	532	75.2	23.5
5年以上10年未満	250	76.4	20.4
10年以上20年未満	166	86.7	13.3
20年以上	428	89.7	8.9

## 5 自由記述

意見は 355 件あった。意見を大きく分類すると、以下のとおりとなった。

### 【主な意見】

#### ◆「横浜市について」・「再転入意向について」

- ・ 「横浜大好き」、「良い街」、「住みやすかった」といった肯定的評価が多数みられた。
- ・ 家賃・土地代や税金が高いこと、子育て環境などが改善されれば、また戻ってきたいという意見もあった。
- ・ 転職・転勤、通勤などの理由で転出しなければならなかったが、職場が横浜にあれば転出しなかった、また横浜に住みたいという意見が多かった。
- ・ 横浜は中華街、元町、みなとみらい以外の観光地が少ないという意見や、東京に比べると魅力が劣っているという意見もあった。

#### ◆「子育て」

- ・ 子育て支援（待機児童対策、中学校給食、小児医療費助成など）や子育て環境（身近な公園、自然など）について否定的な意見が多かった。一方で、子育て広場、こどもログハウス、地域ケアプラザなどを評価する意見もあった。

#### ◆「生活環境」

- ・ 街並みがきれいという意見が多かったが、施設やまちなみが古くなっているとの意見もあった。
- ・ 車道・歩道が狭い、坂道が多いという意見が多かった。街灯が少なく夜道が怖いといった意見もあった。

#### ◆「交通」

- ・ 交通の便がよいという意見が多数あったが、道路の渋滞、（都心部への）通勤ラッシュや通勤時間が長いのが大変という意見も多かった
- ・ 地下鉄等の運賃が高いとの意見が多かった。

◆「税金」

- ・税金が高いという意見が多かった。また、高い割に公共施設、福祉サービスが不足しているという意見もあった。

◆「家賃・土地代」

- ・家賃・土地代が高いなどの意見が多数あった。

◆「自然環境」

- ・自然が豊かという意見もあれば、自然が少ないという意見もあった。

◆「買い物」

- ・買い物がしやすいという意見があったが、一方で、スーパーが近くにない、物価が高いといった意見もあった。

◆「行政窓口サービス」

- ・区役所窓口が混雑しているとの意見があった。

◆「その他」

- ・ごみ処理が無料でよかったといった意見もあった。
- ・人が多すぎるといった意見が多数あった。





## 横浜市外転出者意識調査

【ご記入にあたってのお願い】

1. 質問にはご本人（封筒のあて名の方）がお答えください。
2. 質問によって、あてはまる番号に○を付けて回答する場合と、回答欄に記入する場合がございます。回答数は（ ）内の表記をご参照ください。
3. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成29年10月23日（月）までにご投函ください。

### I. あなたについて

F 1 あなたの性別をお答えください。（○は1つだけ）

- |      |      |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

F 2 あなたが横浜市から転出した時の年齢をお答えください。（○は1つだけ）

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| 1. 20歳～24歳 | 2. 25歳～29歳 | 3. 30歳～34歳 |
| 4. 35歳～39歳 | 5. 40歳～44歳 |            |

F 3 あなたが横浜市でお住まいだった地域はどちらですか。（○は1つだけ）

- |         |        |        |           |         |         |
|---------|--------|--------|-----------|---------|---------|
| 1. 青葉区  | 2. 旭区  | 3. 泉区  | 4. 磯子区    | 5. 神奈川区 | 6. 金沢区  |
| 7. 港南区  | 8. 港北区 | 9. 栄区  | 10. 瀬谷区   | 11. 都筑区 | 12. 鶴見区 |
| 13. 戸塚区 | 14. 中区 | 15. 西区 | 16. 保土ヶ谷区 | 17. 緑区  | 18. 南区  |

F 4 あなたが転出した先の住所を記入してください。

- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 東京都（  | 市・区・町・村） |
| 2. 神奈川県（ | 市・区・町・村） |
| 3. 埼玉県（  | 市・区・町・村） |
| 4. 千葉県（  | 市・区・町・村） |

F 5 あなたが今回転出するまでに、横浜市に住んでいた期間をお答えください。（○は1つだけ）

- |               |             |              |
|---------------|-------------|--------------|
| 1. 1年未満       | 2. 1年以上5年未満 | 3. 5年以上10年未満 |
| 4. 10年以上20年未満 | 5. 20年以上    |              |

F 6 あなたの転出前の世帯構成と、横浜市から転出した先での世帯構成について、あてはまるものの番号をそれぞれ1つ選び記入してください。

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1. 一人暮らし                  | 2. 夫婦のみ            |
| 3. 夫婦（またはいずれか一方）と未婚の子ども   | 4. 夫婦（またはいずれか一方）と親 |
| 5. 夫婦（またはいずれか一方）と親と未婚の子ども | 6. その他の世帯          |
| からなる世帯（3世代が同居する世帯）        |                    |

→	転出前		転出後	
---	-----	--	-----	--

**【裏面もご回答ください】**

F 7 あなたの転出前の住居形態と、横浜市から転出した先での住居形態について、あてはまるものの番号をそれぞれ1つ選び記入してください。

- |               |               |              |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 戸建て住宅（持ち家） | 2. 戸建て住宅（賃貸）  | 3. 集合住宅（持ち家） |
| 4. 集合住宅（賃貸）   | 5. 社宅・公務員宿舎など | 6. その他の住宅    |

→

転出前		転出後	
-----	--	-----	--

Ⅱ. 市外転出事由について

Q 1 あなたが転出するきっかけとなった一番大きな理由を、次の中から選んでください。（○は1つだけ）

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1. 就職・転勤など仕事のため   | 2. 住宅の購入のため     |
| 3. 結婚のため          | 4. 住まいが手狭になったため |
| 5. 子育てや子どもの教育のため  | 6. 親の介護のため      |
| 7. 親や親族との近居・同居のため | 8. その他（ ）       |

Q 2 Q 1 で選択した理由がなければ、そのまま横浜市に住み続けていましたか。（○は1つだけ）

- |            |           |
|------------|-----------|
| 1. 住み続けていた | 2. 転出していた |
|------------|-----------|

Ⅲ. 転出先を選択した理由について

Q 3 あなたが居住地として、横浜市よりも転出先を選んだ理由を次の中から選んでください。（○はいくつでも）

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 交通（通勤・通学・買い物等）の便がよいから | 2. 家賃や住宅の価格が手ごろだから       |
| 3. 親や子、親族などが近くにいるから      | 4. 自然環境が身近にあるから          |
| 5. 日ごろの買い物などが便利だから       | 6. まちなみや景観がよいから          |
| 7. 病院・診療所が近くにあるから        | 8. 保育所や学校など子育て・教育環境がよいから |
| 9. 文化・スポーツ施設などが近くにあるから   | 10. その他（ ）               |
| 11. やむを得ない事情があったから       |                          |

【Q 3 で複数選んだ方にお伺いします】

Q 3-1 → 一番大きな理由の番号を記入してください。

一番大きな理由	
---------	--

Ⅳ. 横浜市への再転入意向について

Q 4 事情が許すなら、また横浜市に住みたいと思いますか。（○は1つだけ）

- |         |           |
|---------|-----------|
| 1. 住みたい | 2. 住みたくない |
|---------|-----------|

V. 最後に、お答えいただいた内容について、ご意見などございましたら、ご記入ください。

--

ご協力ありがとうございました。この調査票を同封の返信用封筒に入れ、10月23日（月）までにご投函ください。（切手は不要です）

